

令和 8 年 度

教 育 委 員 会

教育行政点検・評価報告書

(対象：令和7年度事業)

防府市教育委員会

令和8年 8月

は　　じ　　め　　に

近年、急速に進む人口減少・高齢化や技術革新・グローバル化の進展などこともたちを取り巻く環境は大きく変化しています。さらに今後の社会は、人生100年時代を迎えようとしており、また、超スマート社会の実現に向けた技術革新が急速に進んでいます。

こうした中、防府市教育委員会は、令和3年3月に策定された「第5次防府市総合計画」に合わせて、社会情勢の変化や施策の進捗状況を踏まえ「第2次防府市教育振興基本計画」を策定しました。

「第2次防府市教育振興基本計画」では、本市教育のめざす姿として「めざすまちの姿」と「めざす人の姿」の2つを掲げ、「21世紀をたくましく生き抜く人材の育成」を基本目標とし、5つの施策の柱に基づいた基本施策を定め、その施策に沿った取組を実施することとしています。

防府市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、令和7年度の基本施策の主な取組の執行状況について、「第2次防府市教育振興基本計画」の施策体系に沿って自己評価を行い、学識経験者をはじめとする3人の外部評価者から意見を求め、教育行政点検・評価報告書を作成しました。

本市における教育の基本施策に沿った各取組がどのように展開され、どのような進捗状況にあるのかを、この報告書を公表することにより、市民への説明責任を果たすとともに、市民に信頼される教育行政の推進を図ってまいります。

目 次

■ 点検・評価基準について	1
■ 第2次防府市教育振興基本計画 基本施策の体系	3
■ 令和7年度事業 評価結果	7
I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進	
II 地域ぐるみの教育の推進	
III 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進	
IV 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進	
V 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進	

<基本施策の評価>

I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進	
① キャリア教育の推進	13
② 確かな学力の育成	15
③ 社会の変化に対応した教育の充実	16
④ ICT環境の整備と学習活動の充実	17
⑤ 学校図書館の充実と読書活動の推進	19
⑥ 心の教育の充実	20
⑦ 生徒指導・相談体制の充実	21
⑧ 健康教育の推進	22
⑨ 安全・安心な学校給食の推進	23
⑩ 特別支援教育の充実	24
⑪ 幼児教育の充実	26

Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進	
① 地域とともにある学校づくりの推進	27
② 青少年の健全育成	28
Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進	
① 生涯学習機会の充実	30
② 生涯学習を支える人材の育成と活用	32
③ 人権学習の推進	34
④ 生涯学習の拠点となる施設の充実	35
⑤ 図書館の充実と読書活動の推進	36
Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進	
① 安全・安心な施設整備、教育環境の確保	38
② 学校安全の推進	39
③ 校種間連携・小中一貫教育の推進	41
④ 教育機会の確保	42
⑤ 学校における働き方改革の推進	44
⑥ 教職員の資質能力の向上	45
Ⅴ 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進	
① 文化財の保存	46
② 文化財の活用	48

■ 学識経験者の総評	50
------------	----

■ 点検・評価基準について

1 点検・評価の目的

第2次防府市教育振興基本計画（以降「基本計画」）の基本施策に沿って、広範かつ専門的な教育行政事務が効果的に執行されているかを自らが事後にチェックし、その活動を改善するとともに市民に対する説明責任を果たすことを目的とします。

2 点検・評価の対象

基本計画に掲げる基本施策の事務事業の実施状況とします。

3 点検・評価の方法

基本計画に掲げる5つの基本施策について、事業実施状況（実績等）を踏まえ評価を行いました。

まず、各基本施策の主な取組ごとに、前年度の実施状況（実績や課題等）を元に、「到達度」、「事業効果」、「効率性」、「方向性」の視点から評価し、評点の合計により取組状況を4段階で示しました。次に、その取組状況と目標指数の達成状況から総合的に判断し、基本施策の評価を行いました。

《事務事業の評価の視点と点数》

評価 評価の 視点 点数	到達度	事業効果	効率性	方向性
	・事務や事業の達成状況 ・課題等への対応状況	・事業の有効性 ・本市教育への寄与度合	・投入資源（経費、人材、時間）の妥当性 ・経費削減の工夫	・今後の事業展開方針
4点	事業を計画どおり実施し、事業の課題や改善策、懸案事項について十分な対応ができた。	事業効果が非常に高く、他事業にも良好な波及効果を生じさせた。	経費削減の工夫がなされ、費用対効果が高かった。	有益な事業であるため、今後、事業を拡充して実施する
3点	概ね計画どおりに事業を実施できた。	事業実施により期待どおりの事業効果があった。	事業内容に相応の投入資源で、効率的に事業を実施できた。	今後も継続して事業を実施する。 又は、事業目的を達成したため事業を終了する。
2点	事業の実施状況にやや不十分な面があった。	期待していた事業効果にはやや達しなかった。	一定の事業効果を得るために必要以上の投入資源を要した。	事業内容の見直しが必要である。 又は、今後、事業を縮小する。
1点	計画していた事業の一部しか実施できなかった。	事業効果が低かった。	事業の効率性が低かった。	今後、事業を廃止する。

《事務事業の取組状況》

取組状況	評価点数の合計
AA	15 点以上
A	14～12 点
B	11～9 点
C	8～4 点

《基本施策の評価目安》

評価	評価の判断
優良	計画・目標を上回る成果を得たとき
良好・順調	計画・目標どおりの成果を得たとき
努力	計画・目標を若干下回る成果を得たとき
反省	計画・目標を大幅に下回る成果を得たとき

基本施策の体系

施 策 の 柱	基 本 施 策
Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進	①キャリア教育の推進
	②確かな学力の育成
	③社会の変化に対応した教育の充実
	④ICT環境の整備と学習活動の充実
	⑤学校図書館の充実と読書活動の推進
	⑥心の教育の充実
	⑦生徒指導・相談体制の充実
	⑧健康教育の推進
	⑨安全・安心な学校給食の推進
	⑩特別支援教育の充実
	⑪幼児教育の充実
Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進	①地域とともにある学校づくりの推進
	②青少年の健全育成

主 な 取 組	担当課
◆計画的な進路指導の充実	学校教育課
◆小・中・高連携によるキャリア教育の推進	学校教育課
◆体験的な学習活動の推進	学校教育課
◆小・中の連携及び家庭・地域との連携強化	学校教育課
◆志を抱かせる教育の推進	学校教育課
◆児童生徒の実態に応じた指導計画の作成	学校教育課
◆指導体制の充実	学校教育課
◆「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進	学校教育課
◆学習習慣の確立	学校教育課
◆英語教育の充実	学校教育課
◆プログラミング教育の充実	学校教育課
◆環境教育の充実	学校教育課
◆高速大容量ネットワーク通信環境の整備とタブレット端末の配備	学校教育課
◆大型提示装置の整備	学校教育課
◆ICT活用のための多様な人材活用	学校教育課
◆教職員研修の充実	学校教育課
◆多様な学習活動の推進	学校教育課
◆読書・学習活動の充実	学校教育課
◆関係機関との連携による学校図書館活動の充実	教育総務課
◆学校司書の配置	教育総務課
◆道徳教育の充実	学校教育課
◆体験活動の充実	学校教育課
◆人権教育の充実	学校教育課
◆伝統や文化に関する教育の充実	学校教育課
◆開発的な生徒指導の推進	学校教育課
◆学校内外と連携した問題行動への対応	学校教育課
◆きめ細かな不登校対策の推進	学校教育課
◆緊急時等の学校への支援体制の充実	学校教育課
◆体力向上のための望ましい運動習慣の定着	学校教育課
◆健康な生活を送ろうとする実践力を育てる指導の充実	学校教育課
◆食に関する指導の充実	学校教育課
◆食育の推進	学校教育課
◆使用食材の安全性確保と地産地消の推進	学校教育課
◆食物アレルギーへの対応	学校教育課
◆安全・安心な給食の提供	学校教育課
◆早期からの切れ目のない支援体制の充実	学校教育課
◆特別支援教育の視点を取り入れた通常の学級の授業改善	学校教育課
◆特別支援学級における教育の充実	学校教育課
◆校内教育支援体制の充実	学校教育課
◆特別支援教育に関する広報活動の充実	学校教育課
◆幼保・小の連携の推進	学校教育課
◆子育てに関する相談体制の充実	学校教育課
◆乳幼児機関への支援の充実	学校教育課
◆コミュニティ・スクールの円滑な運営	学校教育課
◆地域協育ネットの推進	生涯学習課
◆広報活動の充実	学校教育課
◆家庭教育機能の強化	生涯学習課
◆非行・問題行動の防止活動や有害な環境の改善活動	生涯学習課
◆青少年活動の推進	生涯学習課
◆子どもの安全・安心対策	生涯学習課

施 策 の 柱	基 本 施 策
Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進	①生涯学習機会の充実
	②生涯学習を支える人材の育成と活用
	③人権学習の推進
	④生涯学習の拠点となる施設の充実
	⑤図書館の充実と読書活動の推進
Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進	①安全・安心な施設整備、教育環境の確保
	②学校安全の推進
	③校種間連携・小中一貫教育の推進
	④教育機会の確保
	⑤学校における働き方改革の推進
	⑥教職員の資質能力の向上
Ⅴ 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進	①文化財の保存
	②文化財の活用

主 な 取 組	担当課
◆生涯学習情報発信の充実	生涯学習課
◆多様な学習機会の提供	生涯学習課
◆生涯学習相談体制の充実	生涯学習課
◆産学公民の教育ネットワークの強化	生涯学習課
◆生涯学習指導者やボランティアの育成機会の充実	生涯学習課
◆ほうふ幸せます人材バンクの充実	生涯学習課
◆学習成果発表の機会づくり	生涯学習課
◆社会教育関係団体や各種ボランティア団体への支援	生涯学習課
◆市民ぐるみの積極的な推進	生涯学習課
◆推進体制の充実	生涯学習課
◆人権学習への支援	生涯学習課
◆公民館の整備・充実	生涯学習課
◆公民館活動の推進	生涯学習課
◆青少年科学館の充実	生涯学習課
◆図書館資料の質・量両面の充実	教育総務課
◆図書館利用者サービスの充実	教育総務課
◆図書館事業への市民参画の促進と活用	教育総務課
◆様々な教育文化施設との連携の推進	教育総務課
◆集会・文化活動及び広報活動の推進	教育総務課
◆「防府市子ども読書活動推進計画」に基づく子どもの読書活動の推進	教育総務課
◆学校施設の整備	教育総務課
◆学校施設非構造部材の耐震化	教育総務課
◆学校教材の整備	学校教育課
◆児童生徒の危機予測・回避能力の向上	学校教育課
◆機能する危機管理体制の確立	学校教育課
◆地域・家庭と連携した学校安全体制の整備	学校教育課
◆防災教育と防災管理を一体的に捉えた、学校防災の充実	学校教育課
◆感染症拡大防止体制の確立	学校教育課
◆幼保・小・中・高の校種間の連携強化	学校教育課
◆小・中9年間を見通した小中一貫教育の推進	学校教育課
◆経済的支援の充実	学校教育課
◆修学支援の充実	教育総務課
◆私立高等学校への支援	学校教育課
◆地理的条件の解消	学校教育課
◆教育支援の充実	学校教育課
◆業務の見直しと効率化	学校教育課
◆勤務体制の改善	学校教育課
◆学校支援人材の活用	学校教育課
◆教職員研修の充実	学校教育課
◆学校内の人材育成	学校教育課
◆文化財調査の推進	文化振興課
◆文化財保護活動への支援	文化振興課
◆文化財の保存・管理の充実	文化振興課
◆文化財の修復	文化振興課
◆情報発信の充実	文化振興課
◆文化財関係施設の整備と活用	文化振興課
◆文化財を活用した学習機会の提供	文化振興課
◆地域等の歴史文化継承への支援	文化振興課

令和7年度事業 評価結果

I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

施策名	① キャリア教育の推進	13ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組とも着実に実施されている。 各関係機関等との連携のもと、児童生徒の発達段階に応じた様々な体験を実施できている。			
施策名	② 確かな学力の育成	15ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できているが、全国学力・学習状況調査の正答率の全国比は下降しており、今後も課題を抽出し授業改善に取り組み、学力向上に努める必要がある。			
施策名	③ 社会の変化に対応した教育の充実	16ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については着実に実施できている。 引き続きA L Tの効果的な活用やチームD A S Hの研究成果の活用など、指導力の向上を図っていく必要がある。			
施策名	④ ICT環境の整備と学習活動の充実	17ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 タブレットの一斉更新に当たっては、引き続きL T E端末を導入するなど、環境整備を進めた。また、I C T活用教育推進員による支援や、チームD A S Hによる会議・研修等により、学習活動でのI C T機器の活用はかなり進んでいる。			
施策名	⑤ 学校図書館の充実と読書活動の推進	19ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 学校司書の増員や研修による資質の向上など読書環境の充実が図られている。 一方で読書をする児童生徒の割合が低下しており、要因の分析と対策の検討を行う必要がある。			
施策名	⑥ 心の教育の充実	20ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については着実に実施できている。 引続き家庭や地域と連携しながら、計画的な事業の実施に努める必要がある。			
施策名	⑦ 生徒指導・相談体制の充実	21ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引続き関係機関等と連携し早期の対応を図るとともに、魅力ある学校づくりに努める必要がある。			
施策名	⑧ 健康教育の推進	22ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は着実に実施できている。 山口県体力テストの総合評価がC以上の児童生徒の割合は3年連続で上昇しており、引き続き、体力の向上、運動習慣の定着に向けた取組を進める必要がある。			
施策名	⑨ 安全・安心な学校給食の推進	23ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 地産地消導入率は高い水準を維持しており、安全性の確保にも努めている。 今後は、老朽化した設備等の更新を計画的に進める必要がある。			

施策名	⑩ 特別支援教育の充実	24ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 令和7年度からは幼児通級指導教室を牟礼南小に新たに開設した。 今後も、特別な教育的支援を必要とする幼児、児童、生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに合った学習環境の提供に努める必要がある。			
施策名	⑪ 幼児教育の充実	26ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 今後も、関係機関が相互理解を深めるとともに、保護者の不安に寄り添った対応を進めていく必要がある。			

外部評価者の意見	全体的には良好であると思われる。令和7年度の目標値に到達していないものでも、例えば、「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」、「人の役に立つ人間になりたい」がそうであるように、昨年度（令和6年度）の「実績」と比較してみると数値は向上している。
外部評価者の意見	不登校が増加している中で、オアシス教室の充実、ステップアップルームが充実してきている。小学校へのステップアップルームの開設が望まれる。 学校図書館での小学生による選書会は、こどもたちに本の魅力と出会わせるよい機会である。学校給食の魅力をこどもたちに伝えるために、地産地消の高い水準を引き続き保ってほしい。
外部評価者の意見	基本施策に対する評価は良好であるが、目標指標においては目標を達成できていない項目もある。ICT環境の整備が進む一方、読書をする割合が減少していること、特別支援学級や不登校になった児童・生徒の心のケア、サポート体制の更なる充実、促進を期待したい。

Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進

施策名	① 地域とともにある学校づくりの推進	27ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。引き続き、学校運営協議会を通じたコミュニティ・スクールの充実や、地域教育ネットの推進に努める必要がある。			
施策名	② 青少年の健全育成	28ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。引き続き、関係機関等と連携した取組みにより各種活動を推進する必要がある。			

外部評価者の意見	全体的には良好であると思われる。ただし、「地域や学校をよくするために何をすべきかを考えることがある」という児童生徒の割合が昨年度（令和6年度）の「実績」と比較して低下しているのは気になる。
外部評価者の意見	コミュニティ・スクールの円滑な運営により、学校と地域との良好な関係が構築されている。保護者や地域住民が学校支援等で来校する機会が増えている。地域と学校が取り組む活動をマスコミ等で盛んに広報している。 問題行動の未然防止のための街頭巡視活動を引き続き充実させたい。「見守り隊の活動」「子ども110番の家の周知」によるこどもの安全対策を充実させたい。
外部評価者の意見	地域ぐるみの教育の推進は順調に実施できている点はよい。防府まると学校のつどいを行い、学校・地域保護者の連携強化ができているが、末端まで浸透する方法が必要だと感じる。子ども110番の家の設置件数は微増しているが、目標にはまだ届いていないので、設置件数増加に向けて推進していただきたい。

Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

施策名	① 生涯学習機会の充実	30ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。引続き、生涯学習情報の発信や多様な学習機会の提供など、継続的に生涯学習に取り組める機会の充実に努める必要がある。			
施策名	② 生涯学習を支える人災の育成と活用	32ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は概ね計画どおり実施されている。生涯学習指導者バンク登録者の派遣回数は目標を大きく上回っているが、生涯学習ボランティア養成講座や幸せます人材バンク研修会の参加者は低調であり、人材育成のための更なる工夫が必要である。			
施策名	③ 人権学習の推進	34ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。防府市人権学習推進市民会議と連携したセミナーや講演会、人権学習指導員の派遣など、市民ぐるみの人権学習の推進が図られている。			
施策名	④ 生涯学習の拠点となる施設の充実	35ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。公民館の建替えや、老朽化が進む施設の改修、設備の改良など、生涯学習環境の充実が図られている。			
施策名	⑤ 図書館の充実と読書活動の推進	36ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。各取組において、新たな試みや関係機関等と広く連携するなど積極的に取組を進めている。			

外部評価者の意見	基本的に、順調・良好に進んでいると思われる。ただし、青少年科学館（ソラル）の入館者数については、令和6年度約8万7千人であったものが令和7年度は約3万6千人と、大幅に減少している点が気になる。その理由について、簡単にでも本点検・評価報告書に記述してあればよかったと思われる。
外部評価者の意見	ほうふ幸せます人材・バンク（指導者バンク）は充実している。講師の積極的な利用が望まれる。公民館における講座や教室等における生涯学習が盛んに行われている。青少年科学館ソラル科学教室等は児童生徒にとって魅力あふれる施設である。文化財郷土資料館とソラルとが連携を緊密にして、博物館の要素を充実させていただきたい。
外部評価者の意見	生涯学習を推進にあたり、全体的な参加人数は増えているが、「ほうふ幸せます人材バンク研修会」の参加者、「ソラル入館者数」の減少が気になる。生涯学習を充実させるために、コラボ企画等を取り入れ、参加しやすい環境づくりを期待したい。

Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

施策名	① 安全・安心な施設整備、教育環境の確保	38ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組は計画どおり実施できている。 学校施設の長寿命化改良や、照明のＬＥＤ化など、学習環境の向上に努めた。			
施策名	② 学校安全の推進	39ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引続き、関係機関や地域等と連携し、効果的な安全教育や防災教育を推進する必要がある。			
施策名	③ 校種間連携・小中一貫教育の推進	41ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組は概ね計画どおり実施できている。 引続き校種間での情報交換を行い、児童生徒の円滑な接続を図る必要がある。			
施策名	④ 教育機会の確保	42ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引き続き、困難や課題を抱えている家庭や児童生徒に対し、教育機会の確保に努める必要がある。			
施策名	⑤ 学校における働き方改革の推進	44ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引続き、業務改善や支援人材の活用により働き方改革を進める必要がる。			
施策名	⑥ 教職員の資質能力の向上	45ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引続き、研修等を通じた教職員の資質能力の向上を図る必要がある。			

外部評価者の 意見	いずれの基本施策も順調・良好に進んでいる。ただし、家庭・地域と連携した防災訓練を実施した小学校の割合は、前年度に比べ小さくなっているため、その理由について、簡単にでも本点検・評価報告書に記述してあればよかったと思われる。
外部評価者の 意見	学校施設の長寿化改良工事、空調設備、照明設備ＬＥＤ化が迅速に行われている。児童生徒への防災教育を、保護者、地域住民と連携した取組に広げていただきたい。小・中9年間を見通した小中一貫教育は総合的な学習の時間をはじめとして、着実に進められてきている。質の高い教育環境づくりのために、学校支援員、教育業務支援員等の質的な向上に努めてほしい。
外部評価者の 意見	全てのこどもたちが安全・安心して教育できる様に教育環境の整備は、今後も積極的に推進していただきたい。教職員の働き方改革は推進中であると認識しているが、教育の質が低下しないように、地域とも連携して学力向上を推進してほしい。

令和7年度事業 評価結果

V 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

施策名	① 文化財の保存	46ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は計画通り実施できている。引続き、開発行為に係る発掘調査と調整を図りつつ、文化財の調査を進めるとともに、保護・保存に努める必要がある。			
施策名	② 文化財の活用	48ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組は概ね計画どおり実施できている。引き続き、関係機関等と連携しながら、文化財関連施設の利用や学習機会の提供を推進していく必要がある。			

外部評価者の意見	概ね順調に推進されていると思われる。ただし、文化財の活用という基本施策の目標指標のひとつである「地域で開催される文化財に関する講座等への講師派遣回数（年間）」については14回である。昨年度の6回からは大きく増えたものの、基準となる令和元年度の36回、目標年度である令和7年度の45回に比べると大きな開きがある。報告書内においてもその説明があればよかったと思われる。
外部評価者の意見	文化財の宝庫である本市の取組は高く評価され観光の基盤となっている。とくに、防府天満宮、周防国分寺、毛利氏庭園、阿弥陀寺については市民の関心、小中学生の知的好奇心をゆさぶる絶好の教材である。 三田尻塩田記念産業公園は歴史的な産業資料であるとともに、科学的な学習要素を大きく含むので、小中学生の学びにさらなる活用が望まれる。
外部評価者の意見	防府にはさまざまな文化財があり、保存・管理・修復は風化させないために必要なことであるが、防府の文化財にふれあう企画をたくさん実施して、防府のよさを多くの方々にもっともっと伝えてほしい。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	① キャリア教育の推進	整理番号	I－①	
基本施策の方針	○ 児童生徒一人ひとりが自らの生き方について考え、夢や志を育むよう、教育活動全体を通じて、発達段階に応じて系統的・計画的な指導を推進します。 ○ 学校と家庭、地域、産業界等との連携体制を強化し、小・中・高等学校等の全教職員がキャリア教育についての共通理解をさらに深めるとともに、体験活動等の一層の充実を図ります。 ○ 将来、直面するであろう様々な課題に柔軟に、かつ、たくましく対応し、社会人として自立していくための意欲や態度、能力を育みます。就学前の幼児教育から小学校教育へのなめらかな接続を図ります。			
目標指標	「自分には、よいところがあると思う」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 （令和7年度）
		小37.2% 中27.1%	小41% 中51%	小80% 中80%
	「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 （令和7年度）
		小66.6% 中39.7%	小64% 中47%	小80% 中80%

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 計画的な進路指導の充実 【学校教育課】	○ 職場見学や職場体験学習を実施した。 （小学校17校、中学校11校） ○ 全ての小・中学校でキャリア教育全体計画を作成し、基礎的・汎用的能力の育成を目指して、キャリア教育を系統的・計画的に実施した。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	14	
		評価	A	
(2) 小・中・高連携によるキャリア教育の推進 【学校教育課】	○ 市内共通のキャリアパスポート「夢ノート」を作成し、校種間で確実に引き継いだ。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	14	
		評価	A	
(3) 体験的な学習活動の推進 【学校教育課】	○ 職場見学や職場体験学習を実施した。 （小学校17校、中学校11校） ○ 「ほうふみらい塾」を開催し、青年会議所や地元企業、市役所職員の協力を得て、社会見学並びに体験学習を充実させた。 ○ ソラールで市内企業と連携した技術展示を行った。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
(4) 小・中の連携及び家庭・地域との連携強化 【学校教育課】	○ 地域連携教育アドバイザー、指導主事及び社会教育主事が、学校運営協議会において、学校支援や地域貢献等を中心とした地域連携のあり方について助言した。 ○ 児童生徒を交えた協議の場「熟議」を実施し、学校・家庭・地域の連携を進めた。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	13	
		評価	A	
(5) 志を抱かせる教育の推進 【学校教育課】	○ 小学校で「1/2成人式（10歳のつどい）」、中学校で「立志式」を実施した。 （小学校:16校 中学校:11校）	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	4	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組とも着実に実施されている。 各関係機関等との連携のもと、児童生徒の発達段階に応じた様々な体験を実施できている。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 各学校が教育活動全体を通じて、キャリア教育で育成する力を明確にし、学校での生活や学びに意欲的に取り組む児童生徒を育成できるよう、小・中・高等学校・特別支援学校を通じた系統的・計画的な取組を引き続き推進します。 (2) (3) 児童生徒の生活や学習が、生涯において豊かになるよう、地域の企業や教育機関等を訪問する社会見学や職場体験、福祉体験等の体験活動の充実を図ります。 (4) 発達の段階に応じて、9年間を見通したキャリアデザインを描きながら、各校種間の連携を図るために、キャリア・パスポートを活用します。コミュニティ・スクールの連携・協働体制を生かし、保護者や地域の人材を有効に活用した教育活動を推進します。 (5) 行事を一時的なものにせず、発達段階に応じた指導を充実させるとともに、家庭や地域と連携しながら、こどもたちが志をもち続けられる活動を推進します。
--	--

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	②確かな学力の育成	整理番号	I-②
基本施策の方針	○ 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容の充実を図ります。 ○ 教科等横断的な視点やキャリア教育の視点に立った学力向上の推進体制を構築します。 ○ 学校・家庭・地域の連携・協働による教育活動を展開していきます。 ○ 校種間の連携を図った教育課程の編成を行います。		
目標指標	全国学力・学習状況調査の正答率の全国比	基準 令和元年度 小+1.3pt 中-1.5pt	実績 令和7年度 小-0.4pt 中-1.2pt
			目標 (令和7年度) 全国平均以上

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績			評価	
(1) 児童生徒の実態に応じた指導計画の作成 【学校教育課】	○ 全国学力・学習状況調査とやまぐち学習支援プログラム「4月確認問題」を4月に、山口県学力定着状況問題を10月に実施し、結果分析を行い、授業改善を行った。			到達度	3
				事業効果	3
				効率性	3
				方向性	4
				合計	13
				評価	A
(2) 指導体制の充実 【学校教育課】	○ 教員の指導力向上を図るための研修会や学力向上推進室長によるスーパーバイザー訪問を行った。また、少人数加配教員として、小・中における提案型、小中連携型、小学校専科(英語以外)、学力向上支援員等をのべ10校に配置し活用した。			到達度	3
				事業効果	3
				効率性	3
				方向性	4
				合計	13
				評価	A
(3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進 【学校教育課】	○ 授業終末の「振り返り」の内容をもとに、授業改善を行った。 ○ 各校において授業づくりに関する校内研修を実施した。 ○ 「学力向上プロジェクト」において、防府市の課題を基に学力向上に向けた取組について協議し、市内の学校へ発信した。			到達度	3
				事業効果	3
				効率性	3
				方向性	3
				合計	12
				評価	A
(4) 学習習慣の確立 【学校教育課】	○ 学校だより等で児童生徒の学習状況について周知し、家庭学習の充実について涵養を図った。 ○ 夏季休業中や放課後は、地域の方や中学生による学習支援を実施した。 ○ ドリルアプリやデジタル教科書等一人一台にタブレット端末を活用した学習習慣の定着を促進した。			到達度	3
				事業効果	3
				効率性	3
				方向性	3
				合計	12
				評価	A
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）	
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できているが、全国学力・学習状況調査の正答率の全国比は下降しており、今後も課題を抽出し授業改善に取り組み、学力向上に努める必要がある。				

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 全国学力・学習状況調査と山口県学力定着状況確認問題を合わせた年間2回のPDC・Aサイクルによる取組(学力分析シート・学力向上プランの組織的な活用と見直し、(2) 結果の検証、授業改善)を徹底します。また、課題となった点については「学び直し」・「補充学習」等による対応を行います。
	(3) 学校教育のほか、関係機関や地域と連携した教育活動など、こども主体の児童会活動・生徒会活動を展開し、社会の一員として主体的に取り組む態度の育成を図ります。
	(4) 児童生徒の実態に応じた課題設定や指導の工夫を行うとともに、家庭との連携による学習習慣の定着を図ります。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	③社会の変化に対応した教育の充実	整理番号	I－③	
基本施策の方針	○ 外国語教育や国際交流などの異文化体験の機会を充実し、「語学力・コミュニケーション能力」「主体性・積極性」「異文化に対する理解」を兼ね備えたグローバル人材の育成を図ります。 ○ プログラミング的思考を育む教育を推進し、目的に応じた問題解決を行うことができる人材育成に取り組めます。 ○ 環境保全やより良い環境の創造のために、自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいくことができる人材育成に取り組めます。			
目標指標	CEFR A1レベル（英語検定3級）相当以上を取得している生徒の割合	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 （令和7年度）
		16.1%	36.0%	40%
	英語（外国語）科の年間総授業数に対してALTを活用した授業時間数が20%以上の学校の割合	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 （令和7年度）
		小74.0% 中74.0%	小82% 中82%	小100% 中100%

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績			評価	
(1) 英語教育の充実 【学校教育課】	○ J E TプログラムによるA L T 11人を小・中学校に派遣した。 ○ 小学校では外国語活動・外国語科を中心に、また中学校では全学年の英語の指導補助やレessonプラン作成等の教材研究補助を行った。 ○ 音声教材や会話の動画を活用し、目的・場面・状況を意識した学習を展開した。			到達度	3
				事業効果	3
				効率性	3
				方向性	3
				合計	12
				評価	A
(2) プログラミング教育の充実 【学校教育課】	○ I C T機器等を活用し、教科横断的なプログラミング教育を推進した。 ○ I C Tを活用した教育活動の推進に向けて、プロジェクトチーム（チームDASH）による研究を実施した。			到達度	3
				事業効果	3
				効率性	3
				方向性	3
				合計	12
				評価	A
(3) 環境教育の充実 【学校教育課】	○ 二酸化炭素の排出量削減を身近な生活の中で実践するなど、子どもたちの環境意識の醸成を図った。 ○ 給食用牛乳パックのリサイクルを実践し、環境問題について考え、トイレトペーパー及びメモ帳を受け取ることにより、環境教育の充実を図った。			到達度	3
				事業効果	3
				効率性	3
				方向性	3
				合計	12
				評価	A
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）	
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組については着実に実施できている。 引き続きA L Tの効果的な活用やチームDASHの研究成果の活用など、指導力の向上を図っていく必要がある。				

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 今後の取組	(1) A L Tの効果的な活用や教員との連携をさらに深めるとともに、英語でのコミュニケーションの機会を広げ、児童生徒が主体的に学べる英語教育の充実を推進します。
	(2) 防府市I C T活用教育研究プロジェクト「チームDASH」を中心とし、研修会の開催や情報発信等を通じて、学習指導や校務においてI C T機器・生成A I・クラウドサービスを適切に運用することができる人材の育成を行います。
	(3) 日常生活の中で環境に配慮した行動を促すとともに、リサイクル活動の充実や体験的な学習を通して、児童生徒の主体的な環境意識の向上を図り、環境教育の充実を推進します。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策		④ICT環境の整備と学習活動の充実	整理番号	I－④									
基本施策の方針		○ GIGAスクール構想の実現に向けて、ネットワーク通信環境の整備とタブレット端末の配備を行います。 ○ ICT機器が効果的に活用されるための環境整備や人的支援を行います。 ○ ICT機器を適切に運用するための人材育成を行います。 ○ 日常的にICT機器を活用した教育活動を行うことで、超スマート社会と言われるSociety5.0の時代を豊かに生き抜く力を育成します。											
目標指標		「小5、中1、中2のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という設問に「ほぼ毎日」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	<table><tr><th>基準</th><th>実績</th><th>目標</th></tr><tr><th>令和元年度</th><th>令和7年度</th><th>（令和7年度）</th></tr><tr><td>小10.2% 中8.3%</td><td>小75.9% 中92.7%</td><td>小80% 中80%</td></tr></table>	基準	実績	目標	令和元年度	令和7年度	（令和7年度）	小10.2% 中8.3%	小75.9% 中92.7%	小80% 中80%	
基準	実績	目標											
令和元年度	令和7年度	（令和7年度）											
小10.2% 中8.3%	小75.9% 中92.7%	小80% 中80%											

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 高速大容量ネットワーク通信環境の整備とタブレット端末の配備 【学校教育課】	○ 児童生徒一人一台のタブレット端末の維持管理等を行い、授業で活用できるようにすることで、情報活用能力の育成を図った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 大型提示装置の整備 【学校教育課】	○ 大型提示装置の維持・管理を行った。 ○ R8～9年度の更新に向けて準備をした。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) ICT活用のための多様な人材活用 【学校教育課】	○ ICT活用教育推進員による授業支援や校内研修の補助を行い、一人一台端末の活用推進を図った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 教職員研修の充実 【学校教育課】	○ プロジェクトチーム「チームDASH」による会議を開催した。（対面・オンライン形式あわせて10回実施） ○ 各校の取組の事例紹介や講師招聘による研修を行った。 ○ 「DASH通信」を発行し、授業でのICT機器活用や校務補助に関する情報を共有した。	到達度	4	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	14	
		評価	A	
(5) 多様な学習活動の推進 【学校教育課】	○ 授業支援アプリや学習用コンテンツを活用して、教員が児童生徒の個別の学習状況を把握したり、学習支援を行った。 ○ 児童生徒自身が学習状況に応じた課題を自ら選び、取り組む活動に、授業支援アプリや学習用コンテンツを活用した。 ○ 遠隔による合同交流学习を行った学校もある。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 タブレットの一斉更新に当たっては、引き続きLTE端末を導入するなど、環境整備を進めた。また、ICT活用教育推進員による支援や、チームDASHによる会議・研修等により、学習活動でのICT機器の活用はかなり進んでいる。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) タブレット端末を持ち帰り、クラウド上で課題に取り組むとともに、生成ＡＩ・学習アシスタントアプリ等を学校だけでなく家庭でも活用し、家庭における学びを促進します。
	(2) 時代の変化を見据えた確かな学力の育成を図るため、大型提示装置やＩＣＴ機器などを整備し、適正な運用、管理に努めます。
	(3) 校務用ネットワークの環境整備を行うとともに、ＩＣＴ活用教育専門員・推進員と連携し、学習者用・指導者用タブレット端末の維持・管理等を行います。
	(4) 防府市ＩＣＴ活用教育研究プロジェクト「チームＤＡＳＨ」を中心とし、研修会の開催や情報発信等を通じて、学習指導や校務においてＩＣＴ機器・生成ＡＩ・クラウドサービスを適切に運用することができる人材の育成を行います。
	(5) 学習支援アプリ等を活用し、児童生徒が目的に応じてクラウドサービス上などで様々な教育データ（学習履歴や操作履歴、テスト結果等）にアクセスし、分析することができるようにします。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑤学校図書館の充実と読書活動の推進	整理番号	I－⑤					
基本施策の方針	○ 学校における質の高い読書活動を推進するとともに、望ましい読書習慣形成のための家庭への啓発に努めます。 ○ 学校図書館の機能充実を図るとともに、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、資料・情報の活用能力を高めます。							
目標指標	平日、読書をする児童生徒の割合（全国学習・学力状況調査より）	<table><tr><th>基準 令和元年度</th><th>実績 令和7年度</th><th>目標 （令和7年度）</th></tr><tr><td>小82.5% 中71.5%</td><td>小72.3% 中60.9%</td><td>小90% 中90%</td></tr></table>	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 （令和7年度）	小82.5% 中71.5%	小72.3% 中60.9%	小90% 中90%
基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 （令和7年度）						
小82.5% 中71.5%	小72.3% 中60.9%	小90% 中90%						

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 読書・学習活動の充実 【学校教育課】	○ 読み聞かせや、朝読書の実施といった読書活動を実施した。 ○ 読書や本の貸出だけでなく、各教科や総合的な学習の時間における調べ学習等でも学校図書館を利用した。 ○ 児童生徒の興味・関心を引くような資料の展示を行った。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(2) 関係機関との連携による学校図書館活動の充実 【教育総務課】	○ 図書館との連携による特別貸出図書を利用するなどして、全小中学校で選書会を開催した。 ○ 図書館から授業等で使用する学校支援図書等を借り受け、資料の充実を図った。 件数 564件、冊数 3,835冊	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(3) 学校司書の配置 【教育総務課】	○ 学校図書館コーディネーター(1人)、学校司書(16人)を配置した。そのうち大規模小学校から学校司書を専任化した(6校)。 ○ 学校図書館コーディネーターを全小・中学校へ年2回派遣し、学校図書館の活動についての情報共有と助言をした。 ○ 学校司書の資質の向上を図った。 外部講師によるオンライン研修(3回)を含む市主催の学校司書研修(年13回)を実施し、外部(県等)主催の学校司書研修にも参加した。 市独自の業務マニュアルの改訂を学校司書全員で行い、基本業務の再確認をした。	到達度 4 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 13 評価 A	
総合評価	想定以上である(優良) ● 想定どおりである(良好・順調)	想定より若干下回った(努力) 想定より大幅に下回った(改善)	
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 学校司書の増員や研修による資質の向上など読書環境の充実が図られている。 一方で読書をする児童生徒の割合が低下しており、要因の分析と対策の検討を行う必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 授業における調べ学習や課外活動等において学校図書館の活用をより一層促進し、児童生徒の情報活用能力の向上を図ります。 また、休み時間の読書などを奨励するとともに、学校だよりや図書館だより等を通じて、家庭への啓発を図ります。 (2) 市立図書館の協力体制により適切な支援を受けながら、実物を見ながら学校図書を選定する選書会を開催するなど、学校図書館の円滑な管理運営に努めます。 また、学校図書館管理システムを効果的に活用し、市内小・中学校図書館の連携を進め、授業で使用する資料や情報の共有化と学習支援体制を強化します。 さらに、市立図書館の指定管理者制度導入に伴い、教育総務課内に設置された図書館管理室が、学校図書館支援センターとしての機能を担いながら、学校図書館活動の拡充を図ります。 (3) 学校図書館のさらなる充実のため、学校司書を17人に増員し、学校司書専任化に努めるとともに、学校図書館コーディネーターを市内全小・中学校へ派遣し、司書教諭との協働を進めます。
--	---

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑥心の教育の充実	整理番号	I－⑥
基本施策の方針	○ 児童生徒の思いやりや規範意識、感動する心など、豊かな人間性や社会性を育むため、保護者や地域の方と育てたい子ども像を共有し、各学校の実態に応じて指導体制を工夫していきます。 ○ 児童生徒の心身の成長の過程に即し、学校の教育活動を通じて人権尊重の意識を高め、一人ひとりを大切にする教育を組織的・計画的に推進します。 ○ 他国の伝統や文化に触れるとともに、我が国の伝統や文化を尊重し、継承・発展させようとする態度の育成を図ります。		
目標指標	「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）	基準 令和元年度 74.1%	実績 令和7年度 73.9%
			目標 (令和7年度) 80.0%

主な取組 【担当課】		令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 道徳教育の充実 【学校教育課】	○ 学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校・家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を活かした授業をするよう、研修会等で指導助言を行った。	到達度		3	
		事業効果		3	
		効率性		3	
		方向性		3	
		合計		12	
		評価		A	
		(2) 体験活動の充実 【学校教育課】	○ 学校・地域連携カリキュラムを活用し、地域人材の協力を得ながら、特別活動や総合的な学習の時間等において体験活動を実施した。	到達度	
事業効果				3	
効率性				3	
方向性				3	
合計				12	
評価				A	
(3) 人権教育の充実 【学校教育課】	○ 県や市主催の人権教育研修会へ積極的な参加を促した。 ○ 防府市教職員研究紹介に、防府市内の小・中学校での人権教育の取組事例や研究成果・課題等を掲載し、各校と情報共有した。			到達度	
		事業効果		3	
		効率性		3	
		方向性		3	
		合計		12	
		評価		A	
		(4) 伝統や文化に関する教育の充実 【学校教育課】	○ 各中学校の文化活動を市民に紹介する場を設けた。 ○ こどもたちが地域とともに行っている伝統芸能等の伝承活動の成果を発表する「こども文化祭」を開催し、文化・芸術の発表・交流の場をつくった。	到達度	
事業効果				4	
効率性				3	
方向性				3	
合計				13	
評価				A	
総合評価				想定以上である（優良）	
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント		各取組については着実に実施できている。 引続き家庭や地域と連携しながら、計画的な事業の実施に努める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって	(1) 道徳教育の要となる道徳科の授業の充実に向け、「考え、議論する道徳」を推進します。また、ゲストティーチャーを活用した授業や、家庭や地域と連携した道徳科の授業を推進します。
改善すべき項目	(2) 児童生徒の豊かな人間性を育むため、特別活動や総合的な学習の時間等において、家庭・地域と連携・協働しながら、自然体験活動や社会奉仕体験活動、交流体験活動等の充実を図ります。
今後の取組	(3) 「山口県人権推進指針」及び「山口県人権教育推進資料」に基づく互いの人格を尊重した態度や言動を育む指導の充実に努め、一人ひとりを大切にする教育を推進します。また、人権に関する作文・標語等の作品募集に対して積極的な参加を促し、児童生徒の人権感覚を育む機会として活用します。
	(4) 発表機会の充実や体験的な活動を通して、伝統や文化への理解と関心を高め、継続的な学びにつなげる取組を推進します。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑦生徒指導・相談体制の充実	整理番号	I-⑦
基本施策の方針	○ 児童生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら、社会的な資質や能力、態度を育成し、豊かな自己実現を支援します。 ○ 学校における全ての教育活動を通じて、一人ひとりの児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成します。		
目標指標	不登校児童生徒の出現率	基準 令和元年度 小0.8% 中4.3%	実績 令和7年度 小2.2% 中7.7%
		目標 (令和7年度) 小0.7%以下 中3.8%以下	

主な取組 【担当課】		令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 開発的な生徒指導 の推進 【学校教育課】	○ 生徒指導主任研修会、教育相談担当者研修会を開催し、生徒指導における現状と課題を認識した上で、指導方針の明確化や発達支持的な生徒指導の共通理解を図った。 ○ いじめや暴力行為などの早期発見、早期対応のための情報提供が、各校のより効果的な生徒指導体制づくりに繋がった。	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	12		
		評価	A		
(2) 学校内外と連携した問題行動への対応 【学校教育課】	○ サポートチーム等の関係機関との情報・行動連携の強化を図り、生徒指導上の諸問題に迅速・的確に対応した。 ○ 生活・安心相談員による訪問支援を行った。	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	4		
		合計	13		
		評価	A		
(3) きめ細かな不登校対策の推進 【学校教育課】	○ 教育支援センター「オアシス教室」の専任指導員を3名雇用し、不登校児童生徒に対しての学習指導を中心に支援を行った。 ○ 不登校やいじめ等の学校教育に関する相談が増加傾向にあるため、学校への助言や家庭への支援を行う生活・安心相談員を配置して、課題の早期発見並びに早期解決を行うなど、きめ細かな対応を行った。	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	4		
		方向性	4		
		合計	14		
		評価	A		
(4) 緊急時等の学校への支援体制の充実 【学校教育課】	○ 学校だけでは解決が困難な問題行動等の発生時や、事件・事故等による児童生徒の精神的動揺が激しい場合に、専門家や専門家チームを学校に派遣し、児童生徒の安全確保や心のケア、学校への助言・支援を行った。 ○ 重篤ないじめ問題等の解決に向けたいじめ調査委員会（第三者機関）の設置及び支援体制の整備に努めた。	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	4		
		合計	13		
		評価	A		
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）	
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント		各取組は計画どおり実施できている。 引続き関係機関等と連携し早期の対応を図るとともに、魅力ある学校づくりに努める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 現在や将来における自己実現を図るため、発達の段階に応じた組織的・計画的な生徒指導を行います。 (2) 多様な視点から児童生徒の状況の変化や進路、その後のサポートに対応できる教育相談体制を構築し、家庭教育への支援や情報提供に努めます。 (3) また、不登校の児童生徒を対象とした防府市教育支援センター「オアシス教室」や校内教育支援センターにおいて、こどもの居場所づくりに努めるとともに、社会的自立に向けた支援を行います。 そして、すべての学校に通う児童生徒を対象に、新たな不登校を生まないよう魅力ある学校・学級づくりに努めます。 (4) 学校だけでは解決が困難な問題行動等の発生時や、事件・事故等による児童生徒の精神的動揺が激しい場合に、スクールソーシャルワーカーや専門家チームを学校に派遣し、児童生徒の安全確保や心のケア、学校への助言・支援を行う体制の充実に努めます。 また、重篤ないじめ問題等が発生した場合は、解決に向けた「いじめ問題等調査委員会」（第三者機関）の設置及び支援体制の整備に努めます。
-------------------------------------	---

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑧健康教育の推進	整理番号	I－⑧
基本施策の方針	○ 自他の生命を尊重し、心身の健康保持に対する意識を高め、発達段階に応じた望ましい生活習慣を育みます。 ○ 健康で安全に行動できる自己管理能力と、たくましく生きるための体力を育みます。		
目標指標	山口県体力テストの総合評価がC以上の児童生徒の割合	基準 令和元年度 73.8%	実績 令和7年度 76.0%
			目標 (令和7年度) 80.0%

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績				評価	
(1) 体力向上のための望ましい運動習慣の定着 【学校教育課】	○ 体力向上レポートに基づいて、体力課題の解決のために、組織的な体力向上に取り組んだ。併せて、地域における部活動を推進し、生徒の体力向上に努めた。	到達度			3	
		事業効果			3	
		効率性			3	
		方向性			3	
		合計			12	
		評価			A	
		(2) 健康な生活を送ろうとする実践力を育てる指導の充実 【学校教育課】	○ 体力テストの分析結果を市ホームページへの掲載、体力熟議の実施など、家庭・地域・関係機関との連携を強化した。	到達度		
事業効果				3		
効率性				3		
方向性				3		
合計				12		
評価				A		
(3) 食に関する指導の充実 【学校教育課】	○ 各校が作成する「食育月間」や「食育の日」に合わせた食育指導に係る実績報告を基に、食に関する指導の取組状況の把握に努めた。			到達度		
		事業効果			3	
		効率性			3	
		方向性			3	
		合計			12	
		評価			A	
		総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
●	想定どおりである（良好・順調）			想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組は着実に実施できている。 山口県体力テストの総合評価がC以上の児童生徒の割合は3年連続で上昇しており、引き続き、体力の向上、運動習慣の定着に向けた取組を進める必要がある。					

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析に基づき、体力向上レポートを作成・見直しを行い、児童生徒の体力向上に努めます。体力・運動能力向上に向けた、学校・家庭・地域の連携体制を構築します。
	(2) 学校保健安全委員会や熟議などを通して学校・家庭・地域が連携し、現代的な健康課題を解決するために生活習慣等を改善しようとする態度の育成を図ります。
	(3) 養護教諭や栄養教諭の専門性を生かし、望ましい生活習慣・食習慣を身に付けることができるよう、各学校が教育活動全体を通じて系統的・計画的な取組を推進します。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑨安全・安心な学校給食の推進		整理番号	I－⑨
基本施策の方針	○ 給食を通じて、学校・家庭・地域の連携による食の大切さを学ぶ食育を推進します。 ○ 地産地消を推進し、安全で質の高い給食を提供します。 ○ 食物アレルギーを有する児童生徒一人ひとりの安全な給食の確保に努めます。 ○ 給食調理場の施設・設備を改善し、安全・安心な給食を提供します。			
目標指標	地産地消導入率	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 (令和7年度)
		73.3%	75.7%	70%以上を維持

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績			評価	
(1) 食育の推進 【学校教育課】	○ 給食物資については、地場産食材を活用し、郷土料理・季節毎の行事食などを献立に取り入れた。 ○ 毎月、食に関する指導などを掲載した給食だよりを保護者へ配布し、食育の推進を図った。 ○ 「ほうふっ子給食」と題しハモっけ等、地元の農水産物に理解を深めることを目的に市内産食品の給食使用を促進した。	到達度	4		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	13		
		評価	A		
(2) 使用食材の安全性確保と地産地消の推進 【学校教育課】	○ 使用食材の産地・生産履歴を確認し、安全性の確保に努めた。 ○ 地場産食材の使用については、市場・卸業者等と連携を図り、学校給食県産食材利用拡大事業の県産100%メニューを年9回以上実施し、各学校等の献立の情報を共有した。 ○ 地場産食材使用率の向上に努めた。	到達度	4		
		事業効果	4		
		効率性	3		
		方向性	4		
		合計	15		
		評価	AA		
(3) 食物アレルギーへの対応 【学校教育課】	○ エピペン実習を含む食物アレルギーに関する「学校保健に関する研修会」を開催した。 ○ 養護教諭主体で、アレルギー症状が見られた際の緊急対応について周知徹底を図った。	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	12		
		評価	A		
(4) 安全・安心な給食の提供 【学校教育課】	○ 各小学校及び学校給食センターの施設や器具の充実及び点検を行った。 ○ 13小学校と小野学校給食共同調理場及び防府市学校給食センターの給食調理を業務委託。（富海小中学校は直営実施） ○ 各学校の給食室や学校給食センターの設備等については、計画をもとに更新を進めた。	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	12		
		評価	A		
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）	
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 地産地消導入率は高い水準を維持しており、安全性の確保にも努めている。 今後は、老朽化した設備等の更新を計画的に進める必要がある。				

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 今後の取組	(1) 使用食材の産地や生産履歴の確認を徹底するなど、安全性の確保に努めるとともに、地元生産者及び市場・卸業者等の情報収集を行い、地場産食材の使用を推進します。
	(2)
	(3) 食物アレルギーを有する児童生徒の保護者との連携を密にし、情報の共有化を図るとともに適切な対応に努めます。
	(4) 安全・安心な給食を提供する上で、より衛生的に調理できるよう計画的に給食施設を改修するとともに、食器の更新を順次進めていきます。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑩特別支援教育の充実	整理番号	I－⑩	
基本施策の方針	○ 特別な教育的支援を必要とする幼児、児童、生徒に対して、適切な合理的配慮の提供を行うとともに、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、個々の能力や個性を最大限に伸長するために、組織的・計画的な支援を行います。 ○ 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒及びその保護者に対して、教育・医療・福祉等との連携による支援の充実を図ります。 ○ 防府市の特別支援教育の取組等についての理解を得るために、適切な情報提供を行います。			
目標指標	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の「個別的教育支援計画」策定率	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 (令和7年度)
		小66.6% 中42.8%	小93.4% 中85.5%	小100% 中100%

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 早期からの切れ目のない支援体制の充実 【学校教育課】	○ 保幼小の教職員が協議できる保幼小連携教育研修会を実施した。 ○ 各小学校単位で職員同士の連絡会や授業参観、こども同士の交流を実施した。 ○ 小・中学校で生徒指導主任会を実施した。 ○ 各中学校区単位で連携を目的とした合同研修会を実施した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	13	
評価	A			
(2) 特別支援教育の視点を取り入れた通常の学級の授業改善 【学校教育課】	○ 特別支援教育担当者研修会及び校内コーディネーター研修会を実施し、特別支援教育の充実を図った。 ○ 学校支援員に対し、学習や生活面で行う支援の方法についての研修会を2回実施した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
評価	A			
(3) 特別支援学級における教育の充実 【学校教育課】	○ 障害のある児童生徒、また、障害の可能性がある児童生徒に対して、必要な教育支援を講ずるために、市内の特別支援学級設置校の校長、担任教員などを委員とする防府市教育支援委員会を設置し、必要となる調査・検査・診断に基づいた教育支援を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
評価	A			
(4) 校内教育支援体制の充実 【学校教育課】	○ 学校支援員を配置し、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する学習支援、健康や安全の確保、運動会や校外活動等の学校行事における支援を行った。 （16小学校に59人 9中学校に13人） ○ 市内4校にある幼児通級指導教室で教育相談・指導を実施した。 （佐波小:66人 華浦小:34人 中関小:55人 牟礼南小:32人）	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
評価	A			
(5) 特別支援教育に関する広報活動の充実 【学校教育課】	○ 「防府市の特別支援教育」のチラシに加えて、未就学の保護者向けのチラシも作成し、保護者や幼稚園・保育園の先生に配布した。 ○ 療育に関わる方を対象の研修で、特別支援教育について説明を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
評価	A			
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 令和7年度からは幼児通級指導教室を牟礼南小に新たに開設した。 今後も、特別な教育的支援を必要とする幼児、児童、生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに合った学習環境の提供に努める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 就学相談を通して、認定こども園・幼稚園・保育園（所）や幼児通級指導教室と連携し、保護者に寄り添いながら、一人ひとりに合った就学や教育の支援ができるよう努めます。 各校種間の相互連携により、特別な教育支援を必要とする幼児児童生徒への理解を深め、個に応じた指導方法の工夫と改善、指導の系統性と継続性を図ります。
	(2) 特別支援教育に関する校内研修の充実を図るとともに、すべてのこどもにわかりやすく、児童生徒一人ひとりが主体的に取り組めるような授業づくりを進めます。 また、学校支援員を配置し、個別の配慮が必要な児童生徒に対する支援を行うことで、学習と学校生活の充実を図ります。
	(3) 個別の教育支援計画を活用して、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握・整理し、適切な指導やきめ細やかな支援を継続して行います。 また、児童生徒の自立と社会参加を見据え、校内の児童生徒や地域の人との交流及び共同学習を推進します。
	(4) 特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する全校的な支援体制を確立し、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす組織的・計画的な教育活動を推進するとともに、保護者との信頼関係を構築します。
	(5) 関係機関との連携をさらに強化するとともに、対象や発達段階に応じた情報発信の充実を図り、特別支援教育への理解促進と円滑な支援体制の推進を行います。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑪幼児教育の充実	整理番号	I－⑪
基本施策の方針	○ 就学前の幼児教育から小学校教育へのなめらかな接続を図ります。 ○ 認定こども園・幼稚園・保育園（所）における保護者の経済的負担軽減や幼児教育の充実に努めます。		
目標指標	「幼保・小連携教育研修会」に参加する保育園・所、幼稚園の割合	基準 令和元年度 76.0%	実績 令和7年度 92.5%
			目標 (令和7年度) 100.0%

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 幼保・小の連携の 推進 【学校教育課】	○ 保幼小連携教育研修会を年2回実施した。 （1回目56人 2回目71人） ○ 5歳児から1年生までの架け橋期の教育のあり方について協議し、教職員連携とこどもたちの育ちと学びをつなげるためのカリキュラム作成に着手した。 ○ 各小学校で作成したスタートカリキュラムをもとに、生活科を中心とした学校生活に慣れるための指導を行った。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
(2) 子育てに関する相 談体制の充実 【学校教育課】	○ 保護者に対して子育てに関する相談を実施した。 （5歳児発達相談会：70人 就学相談：141人） ○ 療育機関や発達に関する医療機関を紹介するなど、保護者の子育ての悩みや不安を解消したり、一人ひとりの実態に応じた支援を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 乳幼児機関への支 援の充実 【学校教育課】	○ 幼稚園連盟補助事業により、防府市幼稚園連盟の行う研究調査及び研修活動等に対し補助を行った。 ○ 私立幼稚園におけるこどもの読書活動を推進するため園児数等に応じて補助した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 今後も、関係機関が相互理解を深めるとともに、保護者の不安に寄り添った対応を進めていく必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 小学校では、幼児教育から小学校教育へ円滑に移行するためのスタートカリキュラムを編成し、指導の一層の充実を図ります。また、「保幼小連携教育研修会」を実施するとともに、「ほうふっこ架け橋期のカリキュラム」をもとに、認定こども園・幼稚園・保育園（所）、小学校が協議を重ね、幼児・児童の実態や教育内容について相互理解を深め、幼児・児童の育ちと学びをつなげた取組を展開します。 (2) 認定こども園・幼稚園・保育園（所）等のいわゆる「年中児」を対象に5歳児（年中児）発達相談会を実施して、幼児の発達特性を保護者に理解してもらい、個に応じた環境が設定されるよう支援することで、幼児の発達を促進します。 また、保護者の様々な悩みの解決に向け、実情に応じた助言や支援をすることで、保護者の育児不安の解消に努めます。 幼児に対する就学相談・就学指導については随時行います。 (3) 園児が安全・安心に活動できる環境確保や管理運営に向けた補助事業等について、積極的に情報を提供し、防府市幼稚園連盟や防府市保育協会と連携しながら、幼児教育の振興・充実に取り組んでいきます。 また、幼稚園でのこどもの読書活動推進に要する費用を補助していきます。
-------------------------------------	---

施策の柱Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進

基本施策	①地域とともにある学校づくりの推進	整理番号	Ⅱ－①
基本施策の方針	○ コミュニティ・スクールの充実を図り、保護者や地域住民が学校運営に参画する地域に開かれた信頼される学校づくりを進めます。 ○ 学校と家庭、地域が連携・協力し、地域ぐるみで子どもたちの育ちや学びを見守り、支援する取組を推進します。		
目標指標	「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という設問に肯定回答した児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度 小59.6% 中43.9%	実績 令和7年度 小80.6% 中75.6% 目標 (令和7年度) 小80% 中80%

主な取組【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績	評価
(1) コミュニティ・スクールの円滑な運営 【学校教育課】	○ 保護者や地域住民等が学校に参集する機会が増加した。 ○ 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、前年度と比べてほぼ同数値であった。基準である令和元年度の数値と比べると、確実に児童生徒の意識の向上が見られる。 ○ 校内で学校・地域連携カリキュラムの見直しを行った。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 4 合計 13 評価 A
(2) 地域協育ネットの推進 【生涯学習課】	○ 「防府まるごと学校のつどい」をオンラインで実施した。多くの協育ネットで共通実践項目に基づく活動が展開された。 ○ 市内15小学校区で放課後子ども教室を実施した。各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に活動した。 ・ 市内放課後子ども教室への参加児童数：延べ5,844人 ・ コーディネーター同士の情報交換会：年3回実施	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A
(3) 広報活動の充実 【学校教育課】	○ コミュニティ・スクールの取組を紹介する事例集を活用し、各学校の取組の周知に努めた。 ○ 学校や地域の魅力を伝えるため、市内小中学校が、県主催の「やまぐちCSプレゼンツ2025」に応募し、保護者や地域住民など多くの方に視聴してもらえるように取り組んだ。プレゼン審査の結果、優良校として、総合部門で新田小、牟礼南小、小野中、大道小・中が、ショートムービー部門で華浦小、桑山中、野島小・中が選ばれた。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A
総合評価	想定以上である（優良） ● 想定どおりである（良好・順調）	想定より若干下回った（努力） 想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引き続き、学校運営協議会を通じたコミュニティ・スクールの充実や、地域教育ネットの推進に努める必要がある。	

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 保護者や地域住民等の学校運営への適切な参画と連携の強化を図り、学校運営協議会を通してコミュニティ・スクールの円滑な運営に努めるなど、地域とともにある信頼される学校づくりを推進します。 各校区の保護者や地域の願いを受け止め、学校運営の質の向上を図り、地域の特色を生かした創意工夫あふれる学校づくりを進めます。 (2) 概ね中学校区を一つのまとまりとして、学校・家庭・地域が協働する地域協育ネットを推進するとともに、ほうふ幸せます人材バンクとの一体的な運用により、学習支援・環境整備・見守り活動などの学校等を拠点とした教育支援事業を実施します。また、小学校において、こどもたちが地域社会で心豊かで健やかに成長できる環境づくりを図るための放課後子ども教室推進事業等を充実させます。 (3) 子育てにおける悩みや不安を抱えた保護者が孤立化することのないよう、親子で参加できる子育てに関する学習や情報交換を通して、保護者同士のネットワークづくりを促進します。
-------------------------------------	---

施策の柱Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進

基本施策	②青少年の健全育成	整理番号	Ⅱ－②
基本施策の方針	○ 関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や相談機能の充実を図るとともに、地域における青少年の非行・問題行動の防止活動や有害な環境の改善活動などの青少年育成活動を推進します。 ○ 青少年の自主性や社会性を培うため、青少年団体の活動を支援します。 ○ 子どもたちが安全に安心して過ごせる環境づくりとして、登下校時などに「不審者からの声かけ」等の被害から、子どもたちの身を守るための避難場所となる「子ども110番の家」の設置を推進します。		
目標指標	「子ども110番の家」設置箇所数	基準 令和元年度 612箇所	実績 令和7年度 526箇所
			目標 (令和7年度) 650箇所

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 家庭教育機能の強化 【生涯学習課】	○ 青少年育成センターに設置している「ヤングテレホン防府」による電話相談や来所相談を実施した。（相談件数：79件） ○ 「家庭の日」運動の啓発を行った。 ・啓発用品（ポスター・チラシ・のぼり旗）を作製・配布（防府市青少年育成市民会議が作製）。 ・市広報や広報紙「はばたき」に関連記事を掲載。 ○ 「家庭の日」親子ふれあいイベントの開催。 （年6回：山口県立大学と協働） ○ 家庭教育支援チームによる「子育て学習会」や「赤ちゃんとのふれあい体験」、「子育て広場」を実施。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 非行・問題行動の防止活動や有害な環境の改善活動 【生涯学習課】	○ 街頭巡視活動を実施した。 ・常時巡視（青少年育成センター指導員）、地区巡視（青少年補導員16地域、153名）（延べ397回実施、1,448人が参加） ・合同巡視（防府警察署、関係団体）：主に毎月第3金曜日に計12回、防府駅周辺店舗・ルルサス防府周辺を巡視。 ○ こども環境クリーンアップ活動を実施した。 ・有害図書類等の設置状況調査（書店、コンビニエンスストア） ・深夜営業施設の調査（ネットカフェ、カラオケ店） ・携帯電話端末等の販売店における立入調査	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 青少年活動の推進 【生涯学習課】	○ 青少年関係団体の支援を行った。 ・青少年団体（防府市青少年育成市民会議、防府青年会議所、防府市子ども会育成連絡協議会、防府スカウト協議会）の活動への補助を行った。 ・週末や「家庭の日」などにおける青少年体験事業の助成（10地域）を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 子どもの安全・安心対策 【生涯学習課】	○ 「子ども110番の家」について周知を行った。 ○ 防府警察署の生活安全課に「子ども110番の家」の設置箇所を情報提供し、連携に努めた。 ○ 「子ども110番の家」のポール・のぼり旗の購入、交換などを行った。 （令和8年3月末時点の登録数：526箇所）	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引続き、関係機関等と連携した取組みにより各種活動を推進する必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や青少年及び保護者に対する相談機能の充実を図り、家庭教育力の向上を目指します。
	(2) 防府市青少年育成センターや関係機関・団体等と連携し、防犯・巡視活動を推進します。 合同巡視については、関係機関と調整し、より効果的な方法を検討します。
	(3) 青少年の様々な活躍の場の充実に向け、週末や「家庭の日」などにおける青少年体験事業の助成や青少年団体の活動の支援を実施します。
	(4) 不審者からの声かけ、つきまとい行為等の被害から子どもたちを守るため、地域と連携し「子ども１１０番の家」の周知・設置を推進します。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	①生涯学習機会の充実	整理番号	Ⅲ－①
基本施策の方針	○ 市民の生涯学習意識を高めるため、必要とされる情報を適切に提供する仕組みの充実を図ります。 ○ 生涯にわたって、現代社会が抱える課題から発生するニーズに応じた、様々な学習活動を支援するための学習機会を提供します。 ○ 高度化・多様化した学習ニーズに対応するため、生涯学習専門員による生涯学習相談コーナーの一層の充実に努めます。 ○ あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができる生涯学習社会の実現に向け、防府市生涯学習推進協議会、行政、市民、民間団体、企業、大学等の連携による、教育ネットワークの強化を図ります。		
目標指標	「聞いて得するふるさと講座（出前講座）」の利用件数	基準 令和元年度 117件	実績 令和7年度 201件
			目標 （令和7年度） 130件

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 生涯学習情報発信の充実 【生涯学習課】	○ 市民向けの講演会や講座などの情報を集約し、市民に生涯学習情報の提供を行った。 ○ 聞いて得するふるさと講座を実施した。（201件）	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(2) 多様な学習機会の提供 【生涯学習課】	○ 各年齢期に応じた子育て講座を実施した。 ・就学期子育て学習会（16小学校各1回） うち家庭教育支援チームによる実施4校 ・思春期子育て講座（10中学校各1回 参加者延べ2,042人）	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(3) 生涯学習相談体制の充実 【生涯学習課】	○ 生涯学習専門員による学習相談やボランティア講師の紹介、生涯学習情報の提供を行った。（対応件数：632件） ○ 情報紙の発行により生涯学習情報の提供を行った。 ・こども向け生涯学習情報紙「まなぼうやだより」（年3回発行） ・ボランティア・協働情報紙「まなぼら」（年4回発行）	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(4) 産学公民の教育ネットワークの強化 【生涯学習課】	○ 第3次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン3）に基づく施策や取組状況の点検及び次年度に向けての見直しを行った。 ○ 第4次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン4）の策定に向けて、庁内策定委員会、生涯学習推進会議、パブリックコメントを行った。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
総合評価	想定以上である（優良） ● 想定どおりである（良好・順調）	想定より若干下回った（努力） 想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引続き、生涯学習情報の発信や多様な学習機会の提供など、継続的に生涯学習に取り組める機会の充実に努める必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 市職員等が講師となる市民向けの講座情報を集約した「聞いて得するふるさと講座（出前講座）」の管理・充実に取り組みます。 また、各年代に対応した様々な情報媒体の活用、市民に分かりやすい情報提供を行い、生涯学習意識の醸成に努めます。
	(2) 生涯にわたって様々な学習活動を支援するため、各世代の学習ニーズに応じた、子育てに関する講習会等による家庭教育の支援や、こどもの体験・交流活動、高齢者の生きがいとなる学習活動等の機会の充実を図ります。 また、「聞いて得するふるさと講座（出前講座）」による、市民一人ひとりの安全・安心な暮らしにつながる防災・防犯、福祉、環境問題などを学ぶ機会の充実を図ります。
	(3) 学習情報に関する資料の充実を図るとともに、生涯学習専門員が迅速かつ的確な情報提供を行い、市民からの相談にきめ細かく対応できるよう、相談能力の向上を図ります。
	(4) 市民が多様な学習課題に応じて必要な学習を行い、それぞれの個性、能力を伸ばし、生きがいのある充実した生活を享受するため産学公民の連携を強化し、企業や大学等の専門性を生かした講座等を開催します。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	②生涯学習を支える人材の育成と活用	整理番号	Ⅲ－②
基本施策の方針	○ 生涯学習に関するボランティア活動の研修の場を継続して提供し、ボランティアや生涯学習指導者・支援者の育成機会の充実を図ります。 ○ ボランティア活動を支援するとともに、生涯学習フェスティバル、放課後子ども教室等のボランティアが活躍できる場を提供します。 ○ 社会教育関係団体等の活動を支援します。 ○ 地域人材の「ほうふ幸せます人材バンク」への登録を進め、学校の授業や地域で開催される講座等での活用を促進します。		
目標指標	「生涯学習指導者バンク」登録者の派遣回数（年間）	基準 令和元年度 164件	実績 令和7年度 232件
			目標 （令和7年度） 200件

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 生涯学習指導者やボランティアの育成機会の充実 【生涯学習課】	○ 生涯学習ボランティア養成講座を開催した。 （参加者数延べ16人） ○ ほうふ幸せます人材バンク研修会を開催した。 （参加者数17人）	到達度	2	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	11	
		評価	B	
(2) ほうふ幸せます人材バンクの充実 【生涯学習課】	○ 指導者バンク登録件数 154件 ○ 支援者バンク登録件数 742件 ○ 指導者バンク登録者による学習会の開催回数 232回 ○ 夏季学ぼうやセミナーの開催：18講座、受講者数：延べ411人 ○ わくわく学び塾の開催：4講座、参加者数：延べ73人 ○ ほうふ幸せます人材バンク研修会の開催：参加者数17人	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 学習成果発表の機会づくり 【生涯学習課】	○ 第32回生涯学習フェスティバルの開催：来場者数3,277人 ・33の個人・団体による講演やものづくり等の企画を実施。セレモニーや実行委員会企画のスタンプラリー等を実施。 ○ 各公民館にある学ぼうやギャラリーの活用、展示の実施。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 社会教育関係団体や各種ボランティア団体への支援 【生涯学習課】	○ 小・中学校PTA連合会や防府ユネスコ協会などの社会教育関係団体等に助成を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組は概ね計画どおり実施されている。 生涯学習指導者バンク登録者の派遣回数は目標を大きく上回っているが、生涯学習ボランティア養成講座や幸せます人材バンク研修会の参加者は低調であり、人材育成のための更なる工夫が必要である。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 学習を指導する講師、生涯学習やボランティア活動の核となるコーディネーター、団体やグループのリーダーなど、生涯学習指導者の指導力を高める研修の場を継続して提供し、育成機会の充実を図ります。
	(2) 専門的な知識や技能のある個人・団体等をボランティアとして登録した「指導者バンク」と学校や公民館が保有する学校支援ボランティアを登録した「支援者バンク」を一元管理する「ほうふ幸せます人材バンク」を充実させるため、各種ボランティア団体との連携に努め、学校の授業や地域の講座等での積極的な活動と横断的な運用を行います。 また、「指導者バンク」による公開講座の開催により、市民への周知と積極的な活用を図ります。
	(3) 学習した成果を発表する作品展、発表会の開催や、活動のPR展示を行い、日頃の学習成果の発表の場を提供し、さらなる学習意欲へとつなげます。
	(4) 市民活動団体は、各種ボランティア活動やNPO活動などを行い、自主的・主体的にまちづくりに参加しています。これらの市民活動団体の活動を支援し、活性化を図ります。 特に、社会教育関係団体については、社会教育に関する公益的な活動を行い、生涯学習の推進に主体的に取り組む団体であることから、団体の自主性を尊重しながら、運営や活動の支援を行います。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	③人権学習の推進	整理番号	Ⅲ－③
基本施策の方針	○ 防府市人権学習推進市民会議と連携し、基本的な人権尊重の視点に立った人権学習を推進するため、様々な学習機会を提供します。 ○ 地域社会の実情や課題、市民の学習ニーズを踏まえた学習内容等の充実に努めます。 ○ 市民一人ひとりの人権が尊重される地域づくりに向けた市民の自主的な人権学習を支援します。		
目標指標	市内で開催する人権学習に関する研修会、講演会等の回数（年間）	基準 令和元年度 77回	実績 令和7年度 111回 目標 (令和7年度) 100回

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績			評価	
(1) 市民ぐるみの積極的な推進 【生涯学習課】	○ 防府市人権学習推進市民会議と連携して、さまざまな人権問題をテーマに講師を招聘し、市民セミナー・講演会を実施した。 【実施事業】 市民会議総会（講演会） 参加者:286人 市民セミナー（4回） 参加者:延べ530人 人権講演会 参加者:126人	到達度	4		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	13		
		評価	A		
(2) 推進体制の充実 【生涯学習課】	○ 人権学習推進委員を対象に、情報交換及び研修会を実施した。 【実施回数】 推進委員研修会：3回 参加者：延べ84人 ○ 市内5か所の教育集会所で、各種教養講座を実施した。 【実施講座】 編み物、ペン習字・実用書道、ペン習字（こども）、和裁、珠算（こども）、手話	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	12		
		評価	A		
(3) 人権学習への支援 【生涯学習課】	○ 地域や学校、企業、団体等で実施される学習会に、人権学習指導員や社会教育主事を派遣し、または人権学習啓発のための視聴覚教材の貸出を行った。 【派遣回数】 人権学習指導員の派遣 111回 【貸出実績】 視聴覚教材（DVD・ビデオ） 110本	到達度	4		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	13		
		評価	A		
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）	
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 防府市人権学習推進市民会議と連携したセミナーや講演会、人権学習指導員の派遣など、市民ぐるみの人権学習の推進が図られている。				

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって	(1) 人権問題に関わる市民のニーズを踏まえるとともに、防府市人権学習推進市民会議を中心として、人権講演会や人権学習市民セミナーを開催し、人権が尊重される、住みよい地域づくりをめざした市民ぐるみの人権学習を推進します。
改善すべき項目	(2) 人権学習推進委員の活動に資するよう研修の充実に努めるとともに、地域、職場、学校、団体等で実施される主体的な活動を支援し、人権問題の正しい理解と人権意識の高揚を図ります。
今後の取組	(3) 人権学習指導員を学習会へ派遣し、また視聴覚教材を充実するなど、誰もが人権学習に進んで取り組むことができるように支援します。 人権尊重の意識を実践につなげるための教育を推進するとともに、教職員相互啓発による人権意識の高揚を図ります。 小・中学校教育研究会人権教育部会の充実に努め、研究成果を「学校人権教育のまとめ」に掲載し、研究成果の共有と実践例の積極的な活用を推進します。 また、人権教育担当者及び新規採用教職員・転入教職員等を対象にした人権教育研修の充実にも努めます。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策		④生涯学習の拠点となる施設の充実	整理番号	Ⅲ－④
基本施策の方針	○ 公民館は、地域における住民の学習ニーズに総合的に応える施設であり、社会教育主事等の配置による専門職員の充実に努めるとともに、地域課題に対応した学習機会の提供や、地域情報の収集、学習情報の提供に努めます。			
	○ 公民館は、地域コミュニティ活動を支援する施設としての役割や、地域の課題を解決するための学習を行う施設としての役割が期待されることから、地域活動の拠点施設としての機能の充実に努めます。			
	○ 青少年科学館（ソラール）では、本市の科学教育普及活動の拠点施設として、創造性豊かな青少年の育成と市民の科学技術に関する知識の普及及び啓発を図ります。			
目標指標	公民館利用者数（年間：延べ人数）	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 （令和7年度）
		204,726人	209,404人	220,000人
	ソラール入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 （令和7年度）
		59,172人	35,570人	80,000人

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 公民館の整備・充実 【生涯学習課】	○ 公民館の経年劣化による施設設備の修繕を随時実施した。 ○ 牟礼公民館が竣工し、供用開始した。 ○ 公民館の照明器具のLED化工事(新田、華城、西浦)を行った。 ○ 公民館の太陽光発電設備設置工事(佐波、富海)を行った。 ○ 公民館の屋上防水改修工事(佐波、富海)を行った。 ○ 中関、大道、華浦公民館の建替えに向けた測量等を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 公民館活動の推進 【生涯学習課】	○ 各公民館において、市民教養講座や家庭教育学級・女性学級・高齢者教室等を実施した。 ○ 各教室について、公民館だよりやホームページ等による情報発信を行った。 ○ 各教室の内容がより充実するよう、他市から講師を招聘し、研修会を実施した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 青少年科学館の充実 【生涯学習課】	○ 年間を通じて各種科学教室や企画展を開催するとともに、小・中学校への理科教室支援も行った。 ○ 青少年の科学技術に対する夢と創造力を育み、創造性豊かな人間形成を図ることを目的として発明クラブの活動を行った。 ○ 科学することもたちの裾野を拡げ、日頃の研究成果の発表の場として「科学アイデア作品・研究コンテスト」を実施した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 公民館の建替えや、老朽化が進む施設の改修、設備の改良など、生涯学習環境の充実が図られている。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 中関、大道、華浦公民館の建替えに向けた、用地取得、基本設計等を行い、また各館の計画的な整備・改修等と適正な維持管理に努めます。
	(2) 公民館における学習情報の発信に努めるとともに、地域課題の解決に向けて地域全体で取り組む拠点となるよう、家庭教育学級や高齢者教室等の多様な学習の場の提供を行います。
	(3) ソラールにおいて、市内企業と連携した技術展示を継続して行います。施設の計画的な整備を進めるとともに、様々な科学教室の開催、小・中学校への理科教育支援、企画展の開催、防府市少年少女発明クラブの活動推進などを行います。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	⑤図書館の充実と読書活動の推進		整理番号	Ⅲ－⑤
基本施策の方針	○「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基づき、本市の特色を生かした資料の収集や、利用者ニーズに対応した幅広い資料の充実・整備を図ります。 ○多様な利用者ニーズに的確に対応するため、利用者サービスの質的向上を図るとともに、市内全域サービスやWebサービスのさらなる充実に努めます。 ○市民との協働を推進し、図書館ボランティアの養成・育成を図ります。 ○学校図書館をはじめ他の図書館や教育文化施設・機関等との相互協力・連携を推進します。			
目標指標	図書館館外個人貸出者数(年間：延べ人数)	基準 令和元年度 141,371人	実績 令和7年度 138,725人	目標 (令和7年度) 147,000人

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 図書館資料の質・量両面の充実 【教育総務課】	○ 「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基づき適正な選書・収集を実施した。 新刊図書8,379冊、雑誌303誌、新聞17紙購入 電子書籍冊数4,420冊（うち郷土資料614冊） ○ 「防府市立防府図書館資料保存及び除籍要綱」に基づき資料の廃棄を進めた。（年間廃棄冊数6,816冊）	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
評価	A		
(2) 図書館利用者サービスの充実 【教育総務課】	○ 図書館協議会にて図書館サービス振興計画に沿った利用者サービスの検証等を行った。（年2回） ○ 図書館サービスを推進するための指針となる「第3次防府市図書館サービス振興基本計画」（令和8年度～令和12年度）を策定した。 ○ 令和7年6月から電子図書館に児童読み放題パックを導入した。（年間閲覧回数 令和6年35,657冊→令和7年31,978冊）	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
評価	A		
(3) 図書館事業への市民参画の促進と活用 【教育総務課】	○ 子ども読書フェスティバルや図書館まつりを例年どおり開催した。特に、図書館まつりには多くのボランティアが関わり、市内の高等学校のボランティア部等の参加もあったため、大変盛況だった。 ○ 図書館ボランティア養成講座を開催した。（4回開催、参加者延べ60人）4回講座のうちの1回を夏休み期間に開催し、大学生の参加があった。受講した人の中から、図書館のボランティアに加入される方がある。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
評価	A		
(4) 様々な教育文化施設との連携の推進 【教育総務課】	○ 学校図書館への学校支援図書の貸出や選書会の開催を支援した。 貸出件数（564件）、貸出冊数（3,835冊） ○ 他の社会教育施設等への講師派遣、共同でのイベント開催など、連携事業を実施した。 ○ 青少年科学館ソラールや山頭火ふるさと館等と関連した展示や合同の企画を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
評価	A		
(5) 集会・文化活動及び広報活動の推進 【教育総務課】	○ 話題の物事や物故者に関する資料を展示した。 月例資料展示36回、ミニ資料展示53回 ブラウジングコーナー壁面の展示6回 ○ 昨年に引き続き、市高齢福祉課の企画と連携してパネル展示をした。 ○ 市内中学生が対象の図書館を活用したクラブ活動（サークル）が始動したため、その活動を支援した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
評価	A		
(6) 「防府市子ども読書活動推進計画」に基づく子どもの読書活動の推進 【教育総務課】	○ こども向けのイベントを開催した。 子ども読書フェスティバル（1回）、読書感想文教室（2回）、子ども図書館員体験（2回）、ビブリオバトル（2回）、さんさんおはなし会（11回）クリスマスおはなし会（1回）、マナーアップキャンペーン（7/2-8/31）、読書感想文のヒント展示（ソラールとの連携事業、7/2-9/1） ○ 特別な配慮を必要とするこどもを対象としたバリアフリー図書を集めた「りんごの棚」を設置した。 ○ 第13回防府市図書館を使った調べる学習コンクールを実施した。（応募作品：小学生25作品、中学生7作品）	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
評価	A		

総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 各取組において、新たな試みや関係機関等と広く連携するなど積極的に取組を進めている。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基づき、図書・電子書籍や視聴覚資料等の充実を図ります。 また、防府市関連の事項・人物等に関する資料、行政関係資料などの郷土（地域）資料の収集、保存、提供に努めます。
	(2) 調査・研究を目的とする利用者のためのレファレンス・サービスの充実を図ります。 また、多様な利用者ニーズに的確な対応ができるよう、図書館職員の資質向上を図り、資料・情報提供サービスの充実に努めます。 移動図書館車と電子図書館のサービスの充実及びその周知に努めるとともに、地域文庫・貸出文庫の利用促進を図ります。さらに、障害者や高齢者へ配慮したサービスの推進に努めます。
	(3) 「子ども読書フェスティバル」や「図書館ボランティア養成講座」等のイベントや講座を通じて、ボランティアや関係団体との関係を深め、活動を支援するとともに、新規ボランティアの養成や育成を図ります。
	(4) ．
	(5)
	(6) こども向け資料等の充実を図るとともに、こどもを対象とした行事を継続し、参加者増加のための効果的な広報に努めます。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	①安全・安心な施設整備、教育環境の確保	整理番号	Ⅳ－①
基本施策の方針	○ 学校施設の耐震化や老朽化施設の整備を図り、安全・安心な学校づくりを推進します。 ○ 少人数学級化など、時代の変化を見据え、誰でも利用しやすく環境に配慮した、ゆとりと潤いのある施設や効果的な授業の実現に向けた学校教材、環境を整備し、質の高い教育環境を提供します。		
目標指標	小中学校屋内運動場等の天井器具等の落下防止対策実施割合	基準 令和元年度	目標 (令和7年度)
		34.5%	実績 令和7年度 74.1% 100.0%

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 学校施設の整備 【教育総務課】	○ 長寿命化改良工事 華浦小学校北校舎（令和8年度まで） 右田小学校屋内運動場（令和8年度まで） 国府中学校北校舎 ○ 校舎等の照明器具ＬＥＤ化工事 富海小学校、新田小学校、向島小学校、富海中学校 ○ 屋内運動場の照明器具ＬＥＤ化工事 中関小学校、華西中学校	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 学校施設非構造部材の耐震化 【教育総務課】	○ 校舎外壁改修ほか工事 中関小学校南校舎	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 学校教材の整備 【学校教育課】	○ 学習生活に必要な教材備品や、新規に開設する特別支援学級の備品などの整備を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 学校施設の長寿命化改良や、照明のＬＥＤ化など、学習環境の向上に努めた。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 児童生徒の安全確保に向け、「防府市学校施設長寿命化計画」に沿った計画的かつ効率的な学校施設の老朽化対策を進めます。 また、特別に支援を要する児童生徒に配慮した施設や健康保持に必要な設備の整備に努めます。
	(2) 安全・安心な学校施設の整備充実を目的として、外壁改修や屋内運動場の照明器具等の落下防止など非構造部材の耐震化を進めていきます。
	(3) 学校教育環境の充実を図るため、理科備品など学校教材を計画的に整備します。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	②学校安全の推進	整理番号	Ⅳ－②
基本施策の方針	○ 学校内外の生活の中で自他の生命を尊重し、安全に行動できるための危機予測・回避能力を育みます。 ○ 学校において、機能する危機管理体制を構築するとともに、地域ぐるみの学校安全体制を整備します。		
目標指標	家庭・地域と連携した防災訓練を実施した学校の割合	基準 令和元年度 実績 令和7年度 目標 (令和7年度)	小70.6% 中45.5% 小79.3% 中68.8% 小100% 中100%

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績	評価
(1) 児童生徒の危機予測・回避能力の向上 【学校教育課】	○ 新一年生を対象に交通教室を実施した。(防府警察署と連携) ○ 警察と連携し、少年安全サポーターを配置して巡回訪問など、学校安全体制の整備した。 ○ 各小・中学校で実施している不審者対応訓練に少年安全サポーターとスクールガードリーダーが参加し、指導助言を行った。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A
(2) 機能する危機管理体制の確立 【学校教育課】	○ 県や市が主催する各種安全教育研修会へ教職員が積極的に参加した。 ○ 市内全ての小・中学校で学校から保護者への携帯メールによる情報配信システムが整備できている。	到達度 3 事業効果 4 効率性 3 方向性 3 合計 13 評価 A
(3) 地域・家庭と連携した学校安全体制の整備 【学校教育課】	○ 各校のスクールガード組織の再構築やみまもり隊との緊急連絡体制の確認を行った。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A
(4) 防災教育と防災管理を一体的に捉えた、学校防災の充実 【学校教育課】	○ 各学校において、地震や津波、豪雨災害等の自然災害や火災を想定した避難訓練を実施した。 ○ また、日時を告げない実践的な避難訓練を実施し、危機回避・危険予測能力の育成に努めた。	到達度 3 事業効果 4 効率性 3 方向性 4 合計 14 評価 A
(5) 感染症拡大防止体制の確立 【学校教育課】	○ 日常的な感染予防対策を各学校で実施した。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A
総合評価	想定以上である(優良) ● 想定どおりである(良好・順調)	想定より若干下回った(努力) 想定より大幅に下回った(改善)
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引続き、関係機関や地域等と連携し、効果的な安全教育や防災教育を推進する必要がある。	

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 通学路の安全点検の実施及び安全マップの見直しと効果的な活用を推進するとともに、自然災害や火災・不審者を想定した避難訓練等を計画的に実施します。 また、学校安全計画に基づいた交通安全指導を実施し、自転車等の交通マナーや自らの命を守る能力を身に付ける交通安全を推進します。
	(2) 安全・安心のための点検活動を計画的・継続的に実施するとともに、定期的な危機管理マニュアルの見直しと効果的な活用を推進し、各種安全教育研修会への参加を促進し、教職員の危機管理能力の向上を図ります。
	(3) 地域の関係団体や保護者との連携の強化による見守り活動等の充実や各地域におけるスクールガード組織の運営へ積極的な支援を行います。
	(4) 地域の自然災害の特徴や児童生徒の発達段階に応じた防災教育を促進し、児童生徒が自らの命を自ら守ることはもとより、周囲の人や社会の安全に貢献できる「防災対応能力」の向上を図ります。 また、災害安全に関する組織活動ができるよう、日頃から開かれた学校づくりに努め、保護者や地域住民、地域の関係機関・団体等との密接な連携を図り、生きる力を育む防災教育や計画的な防災管理の充実に努めます。
	(5) 感染状況に応じた対策の見直しと教職員の共通理解を図るとともに、衛生管理の徹底や児童生徒への継続的な指導により、感染症対策の強化に努めます。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	③校種間連携・小中一貫教育の推進	整理番号	Ⅳ－③
基本施策の方針	○ 幼保・小・中・高の校種間の連携を強化することにより、円滑な接続やつまずきの予防に努めます。 ○ 児童生徒一人ひとりの健やかな成長のために学校・家庭・地域が連携し、小・中学校9年間を見通した小中一貫教育を推進します。		
目標指標	中学校区で、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った小・中学校の割合	基準 令和元年度	実績 令和7年度
		小64.3% 中64.3%	小100.0% 中90.9%
			目標 (令和7年度)
			小100% 中100%

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 幼保・小・中・高の校種間の連携強化 【学校教育課】	○ 保幼小連携教育研修会等の機会を利用し、小1プロブレム解消のための情報交換の必要性について理解を深めた。 ○ 中1ギャップへの対策として、中学校教員による小学校への出前授業、小学生の中学校体験入学など、なめらかな接続のための工夫をした。 ○ 中・高の連携を図るため、学校相互の授業参観等を行い、相互の情報交換の場を設けた。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
(2) 小・中9年間を見通した小中一貫教育の推進 【学校教育課】	○ 小・中学校の合同研修会等の機会を通して、児童生徒の姿をもとにした共通指導事項を整理し、共通実践した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組は概ね計画どおり実施できている。 引続き校種間での情報交換を行い、児童生徒の円滑な接続を図る必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって	(1) 各学校が教育活動全体を通じて、キャリア教育で育成する力を明確にし、学校での生活や学びに意欲的に取り組む児童生徒を育成できるよう、小・中・高等学校・特別支援学校を通じた系統的・計画的な取組を引き続き推進します。
改善すべき項目 ・ 今後の取組	(2) 発達の段階に応じて、9年間を見通したキャリアデザインを描きながら、各校種間の連携を図るために、キャリア・パスポートを活用します。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	④教育機会の確保	整理番号	Ⅳ－④
基本施策の方針	○ 家庭の経済状況による教育格差の改善に向け、経済的支援を通じて、保護者負担を軽減するとともに、意欲・能力のある者への学習機会を確保します。 ○ 家庭環境等の要因による教育格差の解消や地理的制約のある児童生徒に対する就学支援に努めるとともに、様々な困難や課題を抱えている家庭・児童生徒への教育支援を行います。		

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 経済的支援の充実 【学校教育課】	○ 小・中学校への就学に係る経済的な負担の軽減を図るため、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学援助費として学用品費・通学用品費、校外活動費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費、給食費等の補助を行った。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
(2) 修学支援の充実 【教育総務課】	○ 昨今の物価高騰に対応するため、併用型奨学金制度を創設し、申請受付を開始した。 ○ 奨学金及び高校入学準備金の周知及び貸付を行った。 一般奨学金 (R8奨学生) ⇒9人へ新規貸付 （うち7人は定住促進奨学金貸付者） 併用型奨学金（R8奨学生）⇒3人へ新規貸付 高等学校入学準備金 ⇒ 11人へ新規貸付	到達度	4	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	14	
		評価	A	
(3) 私立高等学校への支援 【学校教育課】	○ 私立高等学校生の地域貢献や私立高等学校の振興充実を図るため、高等学校を設置する学校法人を対象に補助金を交付した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 地理的条件の解消 【学校教育課】	○ 野島小・中学校で実施する「茜島シーサイドスクール」に渡船通学する児童生徒の渡船費用の半額を補助した。 ○ 小規模特認校制度により富海小・中学校へ公共交通機関で通学する児童生徒の公共交通機関での通学に要する費用の半額を補助した。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
(5) 教育支援の充実 【学校教育課】	○ 障害のある児童生徒、また、障害の可能性がある児童生徒に対しては、教育支援委員会による適切な教育支援を行った。 ○ 就学援助費補助金等により経済的な援助を行うとともに、生活・安心相談員による教育相談、不登校児童生徒に対しては、在宅生徒学習指導員による指導、教育支援センター「オアシス教室」による通室指導を実施し、学習支援に努めた。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引き続き、困難や課題を抱えている家庭や児童生徒に対し、教育機会の確保に努める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 教育費の保護者負担を軽減するため、経済的困難を抱える家庭に対して就学援助費を補助し、適切な教育機会の確保を図ります。
	(2) 意欲・能力のある者が安心して学習機会を確保できるように、高等学校入学準備金や奨学資金貸付などにより修学支援の充実を図ります。
	(3) 私立高等学校の地域貢献活動や教育用備品購入のための補助金を交付し、教育活動の充実を図ります。
	(4) 学習機会を保障するため、小野小学校区において、徒歩による通学が困難な地区への送迎を行うスクールバス運行事業を実施します。 野島小・中学校（茜島シーサイドスクール事業）においては、県内全域から児童生徒を募集し、渡船通学費用等の補助を実施します。 さらに、小規模特認校の制度を利用して通学する、向島小、富海小・中学校児童生徒の公共交通機関の通学費用の補助を実施します。
	(5) 様々な障害や病気のある児童生徒に対し、個別の支援体制や教育機会を確保するとともに、経済状況などの課題を抱えている家庭に対する教育支援、不登校などの困難を抱えている児童生徒に対する学習支援を充実します。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	⑤学校における働き方改革の推進	整理番号	Ⅳ－⑤
基本施策の方針	○ 学校行事、各種会議、部活動等の学校業務の見直しを図るため、全国の好事例の紹介、各学校の現状把握と成果・課題の洗い出し、改善策についての協議、指導、進行管理等を行います。 ○ 防府市グループウェアや学校支援人材の活用促進により、業務の効率化を図ります。 ○ 学校担当主事制を活用し、各校の状況について把握し、課題の解決に向けた相談体制を強化します。		

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 業務の見直しと効率化 【学校教育課】	○ 統合型校務支援システムが本格導入され、使い方に教職員が慣れることにより、業務の効率化に大きくつながった。 ○ 会議のオンライン実施を継続的に進めた。		到達度	4
			事業効果	4
			効率性	3
			方向性	3
			合計	14
			評価	A
(2) 勤務体制の改善 【学校教育課】	○ 業務の見直しをするとともに、出退勤管理システムを厳格に運用し、各教職員の働き方を「見える化」することにより、時間外在校等時間の平均が小3 2.4時間／月（前年度比7.4％減）、中3 5.1時間／月（前年度比12.9％減）となった。		到達度	3
			事業効果	4
			効率性	3
			方向性	3
			合計	13
			評価	A
(3) 学校支援人材の活用 【学校教育課】	○ 7名の部活動指導員を中学校4校に配置した。 ○ 部活動の練習を指導員に任せることで、教員が本来の業務に専念でき、精神的、時間的な負担が軽減された。 ○ 高い指導力を持った指導員が、指導法の教授や練習内容の提案を行い、指導経験の少ない顧問の良い研修の機会となった。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引続き、業務改善や支援人材の活用により働き方改革を進める必要が。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 業務や学校行事等の見直しに向けた好事例の紹介を行い、各校の業務改善などについての指導に努めるとともに、各種会議・諸調査の精選・簡素化も推進します。グループウェアを活用した情報共有、統合型校務支援システムやICTを活用した業務の省力化、効率化を図ります。学校・教職員が担う業務の役割分担等の検討を進め、学校運営協議会やPTAを通じた保護者・地域への理解促進を図ります。 (2) ICカード等を活用した時間外在校等時間の継続的な把握に基づき、ノー残業デーや一斉退庁日等の設定と実施、学校担当主事の日常的な学校訪問による各校の業務改善の状況把握と指導に努めることで、働き方改革推進のPDCAサイクルの好循環を図ります。県教育委員会が作成した「働き方改革 現状分析ツール」を活用し、各学校における校内研修の充実を支援することで、教職員の「ワーク・ライフ・バランス」への意識高揚に努めます。 (3) 業務支援員、ICT活用教育推進員の配置を継続し、教職員の業務支援や資質向上に向けた研修等のサポートを行います。コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、多様な人々による熟議・協働活動の促進を図ります。
--	---

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	⑥教職員の資質能力の向上	整理番号	Ⅳ－⑥
基本施策の方針	○ 教職員のキャリアステージに応じて計画的・継続的に資質能力の向上を図れるよう、研修体制を工夫していきます。 ○ 教職員が見通しをもって自ら成長していけるよう、防府市が求める教師像を明確に示し、意識の高揚を図ります。		

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 教職員研修の充実 【学校教育課】	○ 人材育成研修（計8回）を実施し、延べ154名の教職員が参加し、キャリアステージに応じた研修を行った。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
(2) 学校内の人材育成 【学校教育課】	○ 小・中学校の全ての教職員が「防府市人材育成シート」を閲覧し、活用できるようにグループウェアで提示した。 ○ 学力向上推進室長が全ての小・中学校を訪問し、学校経営や授業作りについて指導・助言した。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組は計画どおり実施できている。 引続き、研修等を通じた教職員の資質能力の向上を図る必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 今後の取組	(1) 校長会と連携し、若手教職員のスキルアップを目的とした「ほうぶ塾」や、ミドルリーダーの育成をめざした「プレミアムほうぶ塾」等、キャリアステージを意識した人材育成の機会の充実に努めます。
	(2) 山口県教員育成指標をもとに教職員が自己のよさや課題をもとに研修する機会の創出に努めます。

施策の柱Ⅴ 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

基本施策	①文化財の保存		整理番号	V－①
基本施策の方針	○ 文化財の所在場所や性質を明らかにする把握調査を行って記録し、未指定を含む文化財情報の充実を図ります。 ○ 文化財を継承するために、価値を損なわない適切な修理を行います。 ○ 文化財保護に関わる地域住民・活動団体との連携を強化します。 ○ 保存する部分の価値を見定めるため、発掘調査等の文化財調査を計画的に進めていきます。			
目標指標	文化財郷土資料館入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 （令和7年度）
		2,120人	2,210人	3,700人
	英雲荘入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和7年度	目標 （令和7年度）
		3,511人	4,228人	4,700人

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 文化財調査の推進 【文化振興課】	○ 民間開発に伴う発掘調査を実施した。〔確認調査5件・緊急調査2件（うち1件は令和8年度に継続実施）〕 ○ 公共事業に伴う発掘調査を実施した。〔右田小学校体育館増築に伴う本調査・愛光園改築に伴う確認調査〕 ○ 発掘調査報告書を3冊刊行した。〔令和6年度国庫補助事業発掘調査・佐波川右岸防災広場設置に伴う確認調査・周防国府跡既往調査〕	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 文化財保護活動への支援 【文化振興課】	○ 防府史談会の文化財保護啓発活動に対して補助金を交付した。 ○ 各地の郷土史研究団体で歴史や文化財に関する講演を行うとともに、調査方法の助言や、協力した活動を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 文化財の保存・管理の充実 【文化振興課】	○ 文化財指定地の保全について、環境整備に係る年間スケジュールを作成することにより、計画的に整備を実施した。 ○ 指定文化財の現地説明板を修繕した。（1件）	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 文化財の修復 【文化振興課】	○ 周防国分寺土塀修復工事を実施した。また、令和5年7月の豪雨により石垣が崩落した防府天満宮大専坊跡修復工事が終了した。 ○ 名勝の重要な構成要素である東屋は竣工から100年が経過しており、風雨・虫外等により損傷が進んでいたため毛利氏庭園東屋修復事業を開始した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組は計画通り実施できている。 引続き、開発行為に係る発掘調査と調整を図りつつ、文化財の調査を進めるとともに、保護・保存に努める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 公共工事や民間の開発工事に伴う調査の依頼が断続的にあるものの、限られた人員で対応しなければならないため、人員体制の見直し及び綿密なスケジュール管理により、効率よく調査を進めていくことが必要である。 (2) 防府史談会が行う文化財の保存活用のための調査研究等の活動に対して今後も継続して支援する。 郷土史研究団体について、地域に密着し多くの活動を行う団体がある一方で、会員の減少や高齢化により活動が難しくなっている団体がある。今後も相談に応じるとともに調査活動への協力や、研究成果の刊行支援等を行っていく。 (3) 指定地の保全について、年度当初に他のイベント予定などと調整の上、年間スケジュールを作成し、効率的な環境維持と活用につなげる。 公有地化していない土地の地権者が高齢化し、相続後の土地の利用についての相談が増えつつある。 (4) 文化財所有者が現況把握を行いながら、大きな破損がない段階で必要な小修理を施すために、その手順の構築、行政からの適切な連携とアドバイスが必要である。 文化財所有者が本格修理に向けて動き出すために必要な技術者の確保・資金の捻出等について相談に応じ、所有者や行政だけでなく、クラウドファンディングやボランティアを取り込む方策などを提案していく。
--	--

施策の柱Ⅴ 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

基本施策	②文化財の活用	整理番号	V-②
基本施策の方針	○ 地域の誇りである文化財が、地域づくりに活用できるように、文化財情報の公開を推進します。 ○ 文化財に関わる情報が人とアイディアをつなぐ媒体となるような体制づくりをめざします。		
目標指標	【再掲】 文化財郷土資料館入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和7年度 目標 (令和7年度)
		2,120人	2,210人 3,700人
	【再掲】 英雲荘入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和7年度 目標 (令和7年度)
		3,511人	4,228人 4,700人
	地域で開催される文化財に関する講座等への 講師派遣回数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和7年度 目標 (令和7年度)
		36回	14回 45回

主な取組 【担当課】	令和7年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 情報発信の充実 【文化振興課】	○ 展示やイベント情報を随時HPで周知した。 ○ 「防府歴史・文化財読本」を市内全中学1年生及び小中学校転入教員等に配布した。 ○ 英雲荘で、昨年に引き続き10/4～5、11/1～3で観月会を開催し、昼、夜ならではの企画を行うとともに夜間一般公開を実施した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
		(2) 文化財関係施設の整備と活用 【文化振興課】	○ スポット展及び写真展を5回実施し、集客に努めた。 写真展 「昭和30年代の防府の風景」 R7.4.5～R8.3.31 スポット展 「音楽の時間」 5.17～7.13 「戦時下における防府の塩業」 7.26～8.31 「毛利重就と防府」 9.10～12.28 「防石鉄道」 R8.1.10～3.29	到達度
事業効果	3			
効率性	3			
方向性	3			
合計	13			
評価	A			
(3) 文化財を活用した学習機会の提供 【文化振興課】	○ 8/5「染物体験」（ソラール） ○ インターンシップ受入（2回） ○ 校外学習受入（10回） ○ 出前講座等の開催（4回）			到達度
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
		(4) 地域等の歴史文化継承への支援 【文化振興課】	○ 市民の窯場を作る会と協力し、親子の焼物体験を実施した。 ○ 焼物文化の継承活動に対する補助を行った。（1団体） ○ 無形民俗文化財の継承活動に対する補助を行った。（7団体）	到達度
事業効果	3			
効率性	3			
方向性	3			
合計	12			
評価	A			
総合評価	想定以上である（優良）			想定より若干下回った（努力）
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組は概ね計画どおり実施できている。 引き続き、関係機関等と連携しながら、文化財関連施設の利用や学習機会の提供を推進していく必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) タイムリーな情報をより効果的に発信していく手段を検討する必要がある。 英雲荘がもつ歴史文化的要素にふさわしい活用方法やイベントを、観光振興課等と協力し創出していく。
	(2) 事前の情報発信が遅れぎみであった。計画的な、情報発信により、集客力を高めることができると考えられる。 引き続きソラールと連携していくとともに、情報発信の時期と手法を検討していく。
	(3) 総合学習の時間を使った校外学習として、文化財郷土資料館への訪問が定着してきた。 昨年に引続き夏休みのイベントを開催することができた。 体験型の講座やイベントの開催要望が多いが対応できていないため、学校との連携を深め、体験的なイベント開催に努める。
	(4) 焼物を使った地域との連携、文化体験を深めるため、焼物技術保持者と協力して、楽しみながら学べる体験メニューの開発に取り組む。 無形民俗文化財伝承活動への補助金制度をしっかりとPRし、次世代への継承できる継続的な活動を促していく必要がある。

■ 学識経験者の総評

【学識経験者】

山口大学大学院 教育学研究科 佐々木 司 教授

防府市の教育行政は、第2次防府市教育振興基本計画に基づく体系的な基本施策のもとで着実な歩みを見せていると評価できる。本報告書では、「知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進」における「使用食材の安全性確保と地産地消の推進」が「AA」、「一人ひとりがきらめく生涯学習の推進」における「生涯学習指導者やボランティアの育成機会の充実」が「B」である他は、いずれも「A」と評価されている。これら「A」評価は、記載内容からおよそ妥当なものであると思われる。また、評価のほとんどが「A」評価であるということは、防府市教育委員会が堅実に教育を進めておられることの証である。

以上を認めたくえて、今後のためにあえて改善されるとよい点を述べさせていただく。

それぞれの「主な取組」は、到達度、事業効果、効率性、方向性という4つの「評価の視点」から、各4点満点、計16点満点で評価がなされているわけだが、なぜ今年度はその点数が付けられたのかということはわかりにくい。例年、同じ点数が付いているものも少なくない。同じ点数になること自体が悪いわけではないが、どういう場合に4点なのか、3点なのかという基準がわかりにくい。感覚的に付けられているような印象も受ける。

それから、令和元年度を基準年度、令和7年度を目標年度として、当該年度の実績が示されているわけだが、なかには、令和7年度の目標値を早々と達成したもの、逆にかなり開きがあるものがある。今後は、期間内における目標値の上方・下方修正ということが検討されてもよいかもしれない。

また、基本施策ごとに「目標指標」が設定されているわけだが、その目標指標の多くは個別具体的ないわゆる「代替指数」となっている。したがって、必ずしも基本施策の幅の広さをカバーしてくれる総合的な指標ではない。加えて、その「目標指標」は、「主な取組」ごとの4つの視点からなる「A」や「AA」といった評価と連動してはいない。

以上の点検・評価の仕組み、制度設計を改善すれば、防府市の教育ならびに教育行政はますますその輝きを増していくのではないだろうか。

最後に、教育委員会ならびに関係部署、そして何より教育の充実・発展を願い日々活動されている市民の皆様に対して心より敬意を表すとともに、今後の防府市教育のさらなる発展を祈念する。